

平成25年度
「学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究」

**「学校における指導方法と
全国学力・学習状況調査の
結果との関係に関する調査研究」**

調査報告書

平成26年3月

株式会社 リベルタス・コンサルティング

目次

調査概要	1
第 1 章 低学力層児童・生徒の減少や無解答の改善に資する学校の取組	2
1-1 分析使用データ	2
1-2 学校の取組と児童・生徒成績の関係	2
1-3 低学力層底上げを目的変数とした回帰分析.....	33
1-4 学校別無解答率の分析	36
第 2 章 現地調査	99
2-1 対象校の抽出.....	99
2-2 ヒアリング結果	100
2-3 現地調査のまとめ・考察.....	109
第 3 章 まとめ.....	112
3-1 考察	112
3-2 課題等.....	119

調査概要

調査目的

これまでの全国学力・学習状況調査の結果から課題と考えられる低学力層の底上げ，無解答の減少，児童生徒の意欲・関心の向上等に効果的な指導方法を把握するため，平成 25 年度全国学力・学習状況調査の結果から，上記の課題について高い成果を上げている学校や，過去の調査結果と比較して大きく改善が見られた学校における指導方法の特徴を分析する。

調査概要

以下の調査を実施した。

・関係性分析

平成 25 年度全国学力・学習状況調査における学校の取組(学校質問紙における回答状況)と児童・生徒の成績の関係性を分析した。

・現地調査

過去の調査(平成 21 年度)と比べて大きな改善がみられる学校について，特に各種の取組の強化(取組の積極性が従前に比べて高い)がみられる学校を抽出し，現地調査を実施した。

【分析対象】 小学校 2 校，中学校 3 校

第1章 低学力層児童・生徒の減少や無解答の改善に資する学校の取組

平成 25 年度全国学力・学習状況調査における児童・生徒の成績，また学校質問紙における学校の取組状況をもとに分析を行った。なお，経年比較の観点から平成 21 年度の同調査結果を参照した。

1-1 分析使用データ

平成 21 年度及び 25 年度の「全国学力・学習状況調査」の学校質問紙回答データ，平成 25 年度の児童・生徒回答データを用いて分析を行った。

なお，平成 21 年度の対象数は小学校 21,680 校 中学校 10,578 校，平成 25 年度の対象数は小学校 20,624 校/1,134,019 名 中学校 10,317 校/1,087,873 名であった。

1-2 学校の取組と児童・生徒成績の関係

学力層については，取組の成果の結実までの期間を顧慮し，平成 21 年度と 25 年度との間で，学力層 D 層（児童・生徒を成績順にし，四分位とした際，最も成績の低い層）がどれだけ減少したのかを，取組による成果が出ている指標とした。以降は設定した選択肢のうち「よく行った」「よくしている」等の，積極的な取組を示す選択肢を回答したケースについて，「D 層が 5%以上減少した学校（以下，D 層減少校）」と，「D 層が 5%以上増加した学校（以下，D 層増加校）」との比率差が 3 ポイント以上となっているものを示す。

1-2-1 取組と成績の関係（小学校国語 A）

(1) 児童の意欲・関心を高める教育方法

授業の冒頭・最後の時間の使い方により，児童の理解度の向上が図られていることが推測される（図表 1-1，図表 1-2）。特に，「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れた」という項目について，D 層減少校のうち 62.2%は「よく行った」と回答しており，D 層増加校での回答の割合（57.5%）に比べて 4.7 ポイント多く（図表 1-1），本項に示す取組では最も差が大きい。

また授業運営も，一方的な講義とせず，児童が能動的に行動できるような工夫が，効果を得ているものと考えられる（図表 1-3，図表 1-4）。

図表 1-1 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れた

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	62.2%	34.6%	3.1%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	60.8%	35.5%	3.3%	.0%	.3%	100.0%
	5%以上増加	57.5%	38.5%	4.0%	.0%		100.0%
全体		60.3%	36.0%	3.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-2 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	42.4%	50.5%	7.1%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	42.4%	49.8%	7.4%	.1%	.3%	100.0%
	5%以上増加	38.3%	52.3%	9.3%	.1%		100.0%
全体		41.2%	50.8%	7.8%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-3 児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めた

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	46.7%	51.2%	2.0%		.1%	100.0%
	変動率-5~5%	46.7%	50.5%	2.5%	.0%	.3%	100.0%
	5%以上増加	42.7%	53.9%	3.4%	.0%		100.0%
全体		45.5%	51.7%	2.6%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-4 児童の様々な考えを引き出したり, 思考を深めたりするような発問や指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	36.1%	59.7%	4.2%		.1%	100.0%
	変動率-5~5%	35.6%	59.7%	4.4%	.0%	.3%	100.0%
	5%以上増加	32.3%	61.4%	6.3%	.1%		100.0%
全体		34.8%	60.2%	4.9%	.0%	.1%	100.0%

(2) 教育・指導内容及び家庭学習に関する取組

書くことに関する指導や「ノートを取り方」等の学習方法の指導は、D層減少校とD層増加校との間での回答傾向に比較的大きな差が出ている(図表 1-5, 図表 1-6, 図表 1-8)。特に「学習方法(適切にノートをとるなど)に関する指導をした」という項目については、D層減少校はD層増加校に比べ、「よく行った」が6.6ポイント多く、本項に示す取組では最も差が大きい(図表 1-8)。

家庭学習については、児童に対する指導(図表 1-9)、教職員の相互理解に関する取組(図表 1-10)、保護者に対する働きかけ(図表 1-11)と、様々な対象に対する取組に効果がみられる。

図表 1-5 書く習慣を付ける授業を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	29.0%	62.1%	8.7%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	29.0%	61.4%	9.1%	.2%	.3%	100.0%
	5%以上増加	24.9%	63.2%	11.8%	.2%		100.0%
全体		27.8%	62.2%	9.7%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-6 児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	28.8%	63.2%	8.0%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	29.4%	62.0%	8.3%	.1%	.3%	100.0%
	5%以上増加	24.7%	64.2%	11.0%	.1%	.0%	100.0%
全体		27.8%	63.1%	9.0%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-7 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	49.3%	47.0%	3.5%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	49.7%	45.3%	4.6%	.1%	.3%	100.0%
	5%以上増加	46.1%	48.3%	5.5%	.1%	.0%	100.0%
全体		48.5%	46.8%	4.5%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-8 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	59.0%	39.1%	1.8%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	57.0%	40.5%	2.1%	.0%	.3%	100.0%
	5%以上増加	52.4%	45.0%	2.6%	.0%	.0%	100.0%
全体		56.4%	41.3%	2.1%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-9 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国・算共通）

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	35.3%	56.4%	7.9%	.1%	.2%	100.0%
	変動率-5~5%	33.3%	57.4%	8.8%	.1%	.4%	100.0%
	5%以上増加	31.2%	58.9%	9.7%	.1%	.1%	100.0%
全体		33.4%	57.5%	8.8%	.1%	.2%	100.0%

図表 1-10 家庭学習の出し方について、教職員で共通理解を図った

						合計
		当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまらない	当てはまらない	その他・無回答
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	44.8%	44.6%	9.8%	.8%	.1%
	変動率-5~5%	41.2%	46.3%	11.5%	.8%	.3%
	5%以上増加	39.5%	46.5%	13.0%	1.0%	
全体		42.0%	45.7%	11.3%	.8%	.1%

図表 1-11 前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	55.0%	41.3%	3.6%	.0%	.1%
	変動率-5~5%	53.0%	42.2%	4.4%	.1%	.3%
	5%以上増加	51.0%	44.2%	4.7%	.1%	
全体		53.2%	42.4%	4.2%	.1%	.1%

(3) その他

学習規律の維持徹底は、D層減少校ではD層増加校に比べて、「よく行った」が6.7ポイント多く、D層児童の減少という観点から大きな効果を得ているものと推測される(図表 1-12)。また、前年度の全国学力・学習状況調査等の結果を用いた教育指導の改善効果については「よく行った」とする学校自体が少ないものの、D層減少校とD層増加校での差は6.5ポイントと比較的大きい(図表 1-13)。

図表 1-12 学習規律(私語をしない、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底した

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	64.6%	33.2%	2.1%	.0%	.1%
	変動率-5~5%	61.9%	35.3%	2.5%	.0%	.3%
	5%以上増加	57.9%	38.3%	3.8%	.0%	.0%
全体		61.7%	35.4%	2.7%	.0%	.1%

図表 1-13 平成24年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った

					合計
		よく行った	行った	ほとんど行っていない	その他・無回答
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	27.0%	66.7%	6.2%	.1%
	変動率-5~5%	23.1%	67.7%	8.8%	.4%
	5%以上増加	20.5%	70.4%	9.1%	.0%
全体		23.7%	68.1%	8.0%	.2%

1-2-2 取組と成績の関係（小学校国語B）

(1) 生徒の意欲・関心を高める教育方法

授業の冒頭・最後の時間の使い方により、児童の理解度の向上を図る取組（図表 1-14、図表 1-15）や、「児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めた」や「児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした」といった、児童が能動的に行動できるような工夫（図表 1-16、図表 1-17）が、効果を得ていると考えられ、国語Aと同様の傾向がみられる。特に「児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした」という項目については、「よく行った」と回答したD層減少校とD層増加校との割合差が6.1ポイントであり、本項に示す各取組の中で最も大きい（図表 1-17）。

国語Aと異なる点としては、「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」についても、「よく行った」と回答したD層減少校とD層増加校との割合差が3ポイントを越えている点が挙げられる（図表 1-18、図表 1-19）。

図表 1-14 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語BのD層割合変化	5%以上減少	62.7%	34.1%	3.0%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	61.0%	35.5%	3.4%	.0%	.0%	100.0%
	5%以上増加	58.9%	37.5%	3.5%	.0%	.0%	100.0%
全体		60.3%	36.2%	3.4%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-15 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語BのD層割合変化	5%以上減少	43.0%	49.6%	7.3%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	42.7%	49.9%	7.4%	.0%	.0%	100.0%
	5%以上増加	39.3%	52.2%	8.4%	.1%	.0%	100.0%
全体		41.2%	50.9%	7.9%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-16 児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語BのD層割合変化	5%以上減少	48.3%	49.3%	2.3%		.1%	100.0%
	変動率-5~5%	47.3%	50.5%	2.2%	.0%		100.0%
	5%以上増加	42.8%	54.1%	3.0%		.0%	100.0%
全体		45.4%	52.0%	2.6%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-17 児童の様々な考えを引き出ししたり、思考を深めたりするような発問や指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	37.8%	58.1%	4.0%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	37.0%	58.6%	4.4%	.0%		100.0%
	5%以上増加	31.7%	62.5%	5.7%	.0%	.0%	100.0%
全体		34.7%	60.3%	4.9%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-18 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	18.1%	55.9%	25.4%	.5%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	16.1%	55.6%	27.8%	.5%		100.0%
	5%以上増加	14.7%	55.8%	29.0%	.4%	.0%	100.0%
全体		15.8%	55.8%	27.9%	.5%	.0%	100.0%

図表 1-19 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	40.8%	52.0%	7.0%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	40.6%	51.1%	8.2%	.1%		100.0%
	5%以上増加	37.1%	53.8%	9.0%	.1%	.0%	100.0%
全体		39.0%	52.5%	8.4%	.1%	.0%	100.0%

(2) 教育・指導内容及び家庭学習に関する取組

「ノートの取り方」等の学習方法の指導や書くことに関する指導、また「児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導」という項目は、D層減少校とD層増加校の「よく行った」の回答割合に5ポイント以上の比較的大きな差が出ている(図表 1-20, 図表 1-21, 図表 1-22)。特に「学習方法(適切にノートをとるなど)に関する指導をした」については、D層減少校はD層増加校に比べ、「よく行った」と回答した割合が6.5ポイント高い(図表 1-20)。

また国語Aにみられなかった特徴として「本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導した」「資料を使って発表ができるよう指導した」といった、資料の活用に関する質問についても、D層減少校とD層増加校との間で「よく行った」と回答した割合の差が3~4ポイント生じている(図表 1-23, 図表 1-24)。

家庭学習については、国語 A と同様に「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた」「家庭学習の出し方について、教職員で共通理解を図った」という項目で回答に差がみられた（図表 1-26，図表 1-27）。

図表 1-20 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	60.0%	38.4%	1.5%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	58.4%	39.8%	1.8%			100.0%
	5%以上増加	53.5%	43.8%	2.6%	.0%	.0%	100.0%
全体		56.4%	41.4%	2.1%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-21 書く習慣を付ける授業を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	30.2%	61.4%	8.2%	.2%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	29.6%	61.3%	8.8%	.2%	.0%	100.0%
	5%以上増加	25.5%	63.3%	11.1%	.1%	.0%	100.0%
全体		27.8%	62.3%	9.8%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-22 児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	30.6%	61.6%	7.7%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	30.0%	62.0%	7.9%	.0%		100.0%
	5%以上増加	25.0%	64.7%	10.3%	.1%	.0%	100.0%
全体		27.8%	63.2%	9.0%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-23 本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	31.8%	60.0%	8.1%		.1%	100.0%
	変動率-5~5%	30.2%	61.8%	7.9%	.1%		100.0%
	5%以上増加	28.0%	62.9%	9.1%	.0%	.0%	100.0%
全体		29.5%	62.0%	8.5%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-24 資料を使って発表ができるよう指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	25.2%	61.7%	13.0%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	25.2%	62.6%	12.1%	.1%		100.0%
	5%以上増加	21.2%	63.8%	14.9%	.1%	.0%	100.0%
全体		23.3%	63.0%	13.6%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-25 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	50.1%	45.3%	4.4%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	51.5%	44.7%	3.7%	.1%		100.0%
	5%以上増加	45.8%	49.3%	4.8%	.1%	.0%	100.0%
全体		48.6%	46.9%	4.4%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-26 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国・算共通）

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	35.9%	56.1%	7.7%	.1%	.2%	100.0%
	変動率-5~5%	33.4%	57.4%	9.0%	.1%	.1%	100.0%
	5%以上増加	32.3%	58.4%	9.0%	.2%	.1%	100.0%
全体		33.3%	57.6%	8.8%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-27 家庭学習の出し方について、教職員で共通理解を図った

							合計
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	45.1%	44.0%	10.1%	.8%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	41.1%	46.5%	11.6%	.8%		100.0%
	5%以上増加	41.5%	45.9%	11.7%	.9%	.0%	100.0%
全体		42.0%	45.8%	11.4%	.8%	.0%	100.0%

(3) その他

学習規律の維持徹底は、D層減少校ではD層増加校に比べて、「よく行った」という回答が5.7ポイント多い。国語Aと比べると1ポイント低いものの、D層児童の減少という観点から大きな効果を得ているものと推測される（図表 1-28）。

また、前年度の全国学力・学習状況調査等のデータ活用については、国語 A と同様に「具体的な教育活動の改善」という項目において D 層減少校と D 層増加校の間に差がみられる(図表 1-29)ほか、「学校全体での教育活動の改善」についても差がみられる(図表 1-30)。

図表 1-28 学習規律（私語をしない、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底した

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語BのD層割合変化	5%以上減少	64.4%	33.4%	2.1%	.0%	.1%
	変動率-5~5%	64.5%	33.5%	2.0%	.0%	
	5%以上増加	58.7%	37.8%	3.5%	.1%	.0%
全体		61.8%	35.5%	2.7%	.0%	.0%

図表 1-29 平成 24 年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った

					合計
		よく行った	行った	ほとんど行っていない	その他・無回答
国語BのD層割合変化	5%以上減少	26.9%	66.4%	6.7%	.1%
	変動率-5~5%	23.9%	67.5%	8.5%	.1%
	5%以上増加	22.5%	69.7%	7.7%	.1%
全体		23.8%	68.3%	7.8%	.1%

図表 1-30 平成 24 年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を、学校全体で教育活動を改善するために活用した

					合計
		よく行った	行った	ほとんど行っていない	その他・無回答
国語BのD層割合変化	5%以上減少	24.8%	65.9%	9.2%	.1%
	変動率-5~5%	21.7%	66.0%	12.2%	.1%
	5%以上増加	20.5%	68.2%	11.2%	.1%
全体		21.7%	67.0%	11.2%	.1%

1-2-3 取組と成績の関係（小学校算数 A）

(1) 生徒の意欲・関心を高める教育方法

国語と同様に「授業の冒頭で目標を児童に示す」(図表 1-31)、「児童の発言や活動の時間を確保して授業を進める」(図表 1-32)、「児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を実施する」(図表 1-33)といった取組につき、D 層減少校

と D 層増加校の「よく行った」という回答割合に 3 ポイント以上の差がみられる。特に、「児童の発言や活動の時間を確保して授業を進める」取組については差が 6.1 ポイントと比較的大きい（図表 1-32）。

図表 1-31 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	62.9%	34.0%	3.0%	.1%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	60.3%	36.0%	3.4%	.0%	.3%	100.0%
	5%以上増加	59.0%	37.2%	3.7%	.0%	.0%	100.0%
全体		60.3%	36.0%	3.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-32 児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	48.6%	49.3%	2.0%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	47.3%	50.3%	2.2%	.0%	.3%	100.0%
	5%以上増加	42.5%	54.2%	3.3%	.0%	.0%	100.0%
全体		45.5%	51.7%	2.6%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-33 児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を実施

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	37.8%	58.2%	4.0%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	36.5%	59.1%	4.1%	.0%	.3%	100.0%
	5%以上増加	31.8%	62.1%	6.0%	.0%	.0%	100.0%
全体		34.8%	60.2%	4.9%	.0%	.1%	100.0%

(2) 教育・指導内容及び家庭学習に関する取組

教育・指導内容や家庭学習についてみると、D 層減少校と D 層増加校で「よく行った」という回答の割合差が最も大きいのは「学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした」という項目で 8.1 ポイントとなっている（図表 1-34）。この他、「資料を使って発表ができるよう指導した」（図表 1-35）、「児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした」（図表 1-36）についても、3 ポイント以上の差となっている。また、算数に特有の取組である「計算問題などの反復練習をする授業を行った」では 4.7 ポイントの差がみられる（図表 1-37）。

家庭学習に関する取組としては3つの取組が3ポイント以上の差となっており、そのうち「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」という項目では、D層減少校とD層増加校で「よく行った」の差が特に大きく、5.4ポイントの差となっている（図表 1-39）。

図表 1-34 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	61.2%	37.2%	1.5%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	57.4%	40.3%	1.9%		.3%	100.0%
	5%以上増加	53.1%	44.2%	2.6%	.0%	.0%	100.0%
全体		56.4%	41.3%	2.1%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-35 資料を使って発表ができるよう指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	24.4%	63.1%	12.5%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	25.0%	61.8%	12.7%	.1%	.3%	100.0%
	5%以上増加	21.4%	63.7%	14.8%	.1%	.0%	100.0%
全体		23.3%	62.9%	13.5%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-36 児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	29.4%	62.6%	8.0%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	30.0%	61.6%	8.0%	.0%	.3%	100.0%
	5%以上増加	25.2%	64.5%	10.3%	.1%	.0%	100.0%
全体		27.8%	63.1%	9.0%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-37 計算問題などの反復練習をする授業を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	57.2%	40.4%	2.3%	.1%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	54.2%	42.2%	3.1%	.1%	.3%	100.0%
	5%以上増加	52.5%	44.6%	2.8%	.1%	.0%	100.0%
全体		54.1%	42.8%	2.8%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-38 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国・算共通）

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	36.8%	55.2%	7.7%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	33.0%	57.9%	8.6%	.2%	.4%	100.0%
	5%以上増加	31.9%	58.4%	9.5%	.1%	.1%	100.0%
全体		33.4%	57.5%	8.8%	.1%	.2%	100.0%

図表 1-39 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

						合計
		当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまらない	当てはまらない	その他・無回答
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	45.8%	43.6%	9.9%	.7%	.0%
	変動率-5~5%	41.5%	45.7%	11.6%	.9%	.3%
	5%以上増加	40.4%	46.8%	11.8%	.9%	.0%
全体		42.0%	45.7%	11.3%	.8%	.1%

図表 1-40 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	55.0%	41.4%	3.5%	.1%	.0%
	変動率-5~5%	53.9%	41.7%	4.0%	.1%	.3%
	5%以上増加	51.7%	43.6%	4.6%	.1%	.0%
全体		53.2%	42.4%	4.2%	.1%	.1%

(3) その他

学習規律の維持徹底は、D層減少校ではD層増加校に比べて、「よく行った」という回答が8.8ポイント多い(図表1-41)。国語A(6.7ポイント)や国語B(5.7ポイント)と比べてもその差は大きく、D層児童の減少という観点からは国語科に比して大きな効果が得られているものと推測される。また、前年度の全国学力・学習状況調査等の結果を用いた教育指導の改善については「よく行った」とする学校自体が少なく、全体で23.7%に留まるものの、D層減少校とD層増加校での差は6.3ポイントと比較的大きい(図表1-42)。

図表 1-41 学習規律(私語をしない、聞き手に向かって話をするなど)の維持を徹底した

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	66.5%	31.5%	1.9%	.0%	.0%
	変動率-5~5%	63.6%	33.8%	2.3%		.3%
	5%以上増加	57.7%	38.8%	3.5%	.1%	.0%
全体		61.7%	35.4%	2.7%	.0%	.1%

図表 1-42 平成24年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った

					合計
		よく行った	行った	ほとんど行っていない	その他・無回答
算数Aの D層割合 変化	5%以上減少	27.0%	67.0%	5.9%	.0%
	変動率-5~5%	24.0%	66.4%	9.1%	.5%
	5%以上増加	21.7%	70.0%	8.2%	.1%
合計		23.7%	68.1%	8.0%	.2%

1-2-4 取組と成績の関係（小学校算数B）

(1) 生徒の意欲・関心を高める教育方法

算数Aと同様に「授業の冒頭で目標を児童に示す」「児童の発言や活動の時間を確保して授業を進める」「児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を実施する」といった取組につき、D層減少校とD層増加校の「よく行った」の回答割合に3ポイント以上の差がみられる（図表1-43、図表1-45、図表1-46）。特に「児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導を実施する」（図表1-46）についてはその差が6.2ポイントと大きい。

なお、算数Aに見られなかったものとして「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた」「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」（図表1-44、図表1-47）がある。この2つの取組の効果については国語Bにもみられたものである（図表1-15、図表1-19）。

図表 1-43 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動を計画的に取り入れた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数BのD層割合変化	5%以上減少	62.7%	34.2%	3.0%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	60.2%	36.5%	3.3%	.1%	.0%	100.0%
	5%以上増加	58.2%	38.0%	3.8%	.0%	.0%	100.0%
全体		60.3%	36.2%	3.4%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-44 授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数BのD層割合変化	5%以上減少	42.5%	50.0%	7.4%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	42.2%	50.1%	7.6%	.0%	.0%	100.0%
	5%以上増加	38.4%	52.8%	8.7%	.1%	.0%	100.0%
全体		41.2%	50.9%	7.9%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-45 児童の発言や活動の時間を確保して授業を進めた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数BのD層割合変化	5%以上減少	48.0%	49.9%	2.0%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	46.1%	51.4%	2.5%	.0%	.0%	100.0%
	5%以上増加	41.8%	54.8%	3.4%	.0%	.0%	100.0%
全体		45.4%	52.0%	2.6%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-46 児童の様々な考えを引き出ししたり、思考を深めたりするような発問や指導を実施

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	36.6%	59.2%	4.1%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	35.4%	59.9%	4.7%	.0%		100.0%
	5%以上増加	31.8%	62.0%	6.2%	.0%	.0%	100.0%
全体		34.7%	60.3%	4.9%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-47 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	40.9%	51.5%	7.6%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	39.4%	52.2%	8.4%	.1%		100.0%
	5%以上増加	36.6%	54.0%	9.2%	.1%	.0%	100.0%
全体		39.0%	52.5%	8.4%	.1%	.0%	100.0%

(2) 教育・指導内容及び家庭学習に関する取組

教育・指導内容や家庭学習についてみると、D層減少校とD層増加校で「よく行った」という回答の割合差が最も大きいのは「学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした」で7.7ポイントとなっている（図表 1-51）。また、算数に特有の取組である「計算問題などの反復練習をする授業を行った」では4.6ポイントの差がみられる（図表 1-52）。その他「児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした」「本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導した」「学級やグループで話し合う活動を授業などで行った」についても3ポイント以上の差がみられる（図表 1-48, 図表 1-49, 図表 1-50）。

家庭学習に関する取組としては2つの取組が3ポイント以上の差となっており、そのうち「家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った」につきD層減少校とD層増加校で「よく行った」の差が特に大きく、3.6ポイントの差となっている（図表 1-54）。

図表 1-48 児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	28.8%	62.5%	8.6%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	29.4%	62.5%	8.0%	.1%		100.0%
	5%以上増加	24.6%	64.7%	10.6%	.1%	.0%	100.0%
全体		27.8%	63.2%	9.0%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-49 本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	30.7%	60.5%	8.8%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	29.9%	62.1%	7.9%	.1%		100.0%
	5%以上増加	27.6%	63.4%	8.9%	.1%	.0%	100.0%
全体		29.5%	62.0%	8.5%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-50 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	50.4%	45.5%	4.0%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	49.8%	46.2%	3.9%	.1%		100.0%
	5%以上増加	45.3%	49.3%	5.3%	.1%	.0%	100.0%
全体		48.6%	46.9%	4.4%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-51 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	59.9%	38.3%	1.7%		.1%	100.0%
	変動率-5~5%	56.9%	41.1%	2.0%			100.0%
	5%以上増加	52.2%	45.0%	2.7%	.0%	.0%	100.0%
全体		56.4%	41.4%	2.1%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-52 計算問題などの反復練習をする授業を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	56.1%	41.0%	2.7%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	54.5%	42.4%	3.0%	.1%		100.0%
	5%以上増加	51.5%	45.9%	2.5%	.1%	.0%	100.0%
全体		54.1%	43.0%	2.8%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-53 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国・算共通）

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	35.2%	57.0%	7.5%	.1%	.2%	100.0%
	変動率-5~5%	33.0%	58.0%	8.7%	.2%	.1%	100.0%
	5%以上増加	31.9%	57.7%	10.2%	.1%	.1%	100.0%
全体		33.3%	57.6%	8.8%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-54 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

							合計
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	44.7%	44.4%	10.1%	.8%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	41.2%	45.9%	12.0%	.9%	.0%	100.0%
	5%以上増加	41.1%	46.1%	11.9%	.9%	.0%	100.0%
全体		42.2%	45.5%	11.4%	.8%	.0%	100.0%

(3) その他

学習規律の維持徹底は、D層減少校ではD層増加校に比べて、「よく行った」という回答が8.0ポイント多い。算数A（8.8ポイント、図表1-41）に比べると小さいものの、D層児童の減少という観点からは国語科に比して大きな効果が得られているものと推測される（図表1-55）。この他、「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している」では差が3.9ポイントとなっている（図表1-56）。

また、「前年度の全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用し、学校全体で教育活動を改善するために活用した」「前年度の全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った」についても、D層減少校ではD層増加校に比べて、「よく行った」という回答がそれぞれ3ポイント以上多い。（図表1-57、図表1-58）。

図表 1-55 学習規律（私語をしない、聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	65.0%	32.5%	2.4%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	62.9%	34.8%	2.3%	.0%		100.0%
	5%以上増加	57.0%	39.4%	3.5%	.1%	.0%	100.0%
全体		61.8%	35.5%	2.7%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-56 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	60.8%	37.7%	1.4%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	56.4%	41.2%	2.3%	.0%	.1%	100.0%
	5%以上増加	56.9%	40.9%	2.0%	.0%	.2%	100.0%
全体		57.9%	40.0%	1.9%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-57 平成 24 年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用し、学校全体で教育活動を改善するために活用した

						合計
		よく行った	行った	ほとんど行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	26.6%	67.0%	6.3%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	23.4%	67.7%	8.8%	.1%	100.0%
	5%以上増加	21.4%	70.4%	8.1%	.0%	100.0%
全体		23.8%	68.3%	7.8%	.1%	100.0%

図表 1-58 平成 24 年度全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った

						合計
		よく行った	行った	ほとんど行っていない	その他・無回答	
算数Bの D層割合 変化	5%以上減少	24.2%	66.3%	9.3%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	21.0%	66.7%	12.2%	.1%	100.0%
	5%以上増加	20.0%	68.1%	11.9%	.0%	100.0%
全体		21.7%	67.0%	11.2%	.1%	100.0%

1-2-5 取組と成績の関係（中学校国語 A）

(1) 生徒の意欲・関心を高める教育方法

「様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をした」「生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた」「生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」といった，思考を深める，また発言させたり，考えさせたりする機会の確保について，D層減少校は，D層増加校に比べて「よく行った」という回答がそれぞれ3ポイント以上高く，一定の効果があるものと考えられる(図表 1-59, 図表 1-60, 図表 1-61)。

また小学校国語と異なり，「学級全体」あるいは「グループ」での活動に関する取組が効果があるものと考えられ，「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」「学級やグループで話し合う活動を授業などで行った」(図表 1-62, 図表 1-63)といった項目について，D層減少校は，D層増加校に比べて「よく行った」という回答がいずれも3ポイント以上高い。特に前者については，6.6ポイントの差であり，本項で最も大きな差となっている。

図表 1-59 様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導をした

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語AのD層割合変化	5%以上減少	24.2%	68.9%	6.8%		.2%
	変動率-5~5%	24.0%	68.2%	7.7%	.0%	.0%
	5%以上増加	21.0%	69.3%	9.7%		
全体		23.3%	68.6%	7.9%	.0%	.1%

図表 1-60 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語AのD層割合変化	5%以上減少	31.1%	63.1%	5.7%		.1%
	変動率-5~5%	31.1%	61.9%	6.9%	.0%	.0%
	5%以上増加	27.5%	65.4%	7.0%	.0%	.0%
全体		30.2%	63.1%	6.6%	.0%	.0%

図表 1-61 生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語AのD層割合変化	5%以上減少	37.2%	58.5%	4.2%		.1%
	変動率-5~5%	35.7%	58.5%	5.7%	.1%	.0%
	5%以上増加	33.6%	60.5%	5.8%	.1%	
全体		35.6%	59.0%	5.3%	.1%	.0%

図表 1-62 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	51.7%	46.1%	2.1%		.1%	100.0%
	変動率-5~5%	49.9%	47.7%	2.3%	.0%	.0%	100.0%
	5%以上増加	45.1%	52.0%	2.9%			100.0%
全体		49.2%	48.3%	2.4%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-63 学級やグループで話し合う活動を授業などで行った

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	26.7%	56.1%	17.0%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	25.8%	56.1%	17.8%	.2%	.1%	100.0%
	5%以上増加	23.4%	55.8%	20.6%	.2%		100.0%
全体		25.4%	56.0%	18.3%	.2%	.1%	100.0%

(2) 教育・指導内容及び家庭学習に関する取組

「本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導した」や「資料を使って発表ができるよう指導した」といった資料の利活用に関する取組(図表 1-64, 図表 1-65)といった、生徒の能動的な学習に資する指導のほか、「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」「書く習慣を付ける授業を行った」「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」といった、言語能力に意識を置いた授業の実施(図表 1-66, 図表 1-67, 図表 1-68)が、効果があるものと考えられる。この中でも「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」(図表 1-68)は、D層減少校とD層増加校の「よく行った」の回答割合の差が4.7ポイントで特に大きい。

図表 1-64 本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	19.1%	59.6%	21.1%	.2%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	17.4%	57.9%	24.2%	.4%	.1%	100.0%
	5%以上増加	15.6%	60.5%	23.7%	.3%		100.0%
全体		17.4%	59.0%	23.2%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-65 資料を使って発表ができるよう指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	17.9%	61.3%	20.5%	.2%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	16.6%	60.7%	22.3%	.4%	.0%	100.0%
	5%以上増加	14.2%	60.5%	25.2%	.2%		100.0%
全体		16.4%	60.8%	22.5%	.3%	.0%	100.0%

図表 1-66 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	20.2%	61.7%	17.4%	.5%	.2%	100.0%
	変動率-5~5%	19.0%	60.7%	19.6%	.5%	.1%	100.0%
	5%以上増加	16.2%	61.4%	21.4%	.8%	.2%	100.0%
全体		18.7%	61.2%	19.4%	.6%	.1%	100.0%

図表 1-67 書く習慣を付ける授業を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	35.8%	56.2%	7.7%	.2%	.2%	100.0%
	変動率-5~5%	34.3%	58.5%	7.0%	.2%	.0%	100.0%
	5%以上増加	31.5%	60.1%	8.1%	.2%	.1%	100.0%
全体		34.0%	58.2%	7.5%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-68 様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	25.5%	60.6%	13.7%	.1%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	24.2%	60.3%	15.1%	.3%	.0%	100.0%
	5%以上増加	20.8%	62.3%	16.4%	.5%	.1%	100.0%
全体		23.7%	60.9%	15.1%	.3%	.1%	100.0%

(3) その他

学習規律の維持徹底は、D層減少校とD層増加校の「よく行った」という回答のポイント差が11.2%と、大きな差がみられた(図表 1-69)。

また、「講師を招聘するなどの校内研修」(図表 1-70)や「組織的な研修等」を「よくしている」と回答している学校(図表 1-71)において、学力の底上げが図られている。

図表 1-69 学習規律の維持を徹底した

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	67.7%	30.6%	1.6%	.0%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	64.7%	33.2%	2.1%		.0%	100.0%
	5%以上増加	56.5%	40.4%	3.1%	.0%		100.0%
全体		63.5%	34.3%	2.2%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-70 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	42.2%	42.4%	13.3%	2.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	39.1%	45.4%	13.5%	2.0%		100.0%
	5%以上増加	38.6%	45.7%	13.7%	2.0%		100.0%
全体		39.8%	44.7%	13.5%	2.0%	.0%	100.0%

図表 1-71 教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	無回答その他	
国語Aの D層割合 変化	5%以上減少	43.2%	49.4%	7.1%		.3%	100.0%
	変動率-5~5%	41.6%	50.2%	8.0%	.0%	.2%	100.0%
	5%以上増加	40.1%	51.6%	8.1%		.2%	100.0%
全体		41.7%	50.3%	7.8%	.0%	.2%	100.0%

1-2-6 取組と成績の関係（中学校国語B）

(1) 生徒の意欲・関心を高める教育方法

「生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた」という項目について、D層減少校ではD層増加校に比べ「よく行った」という回答が3ポイント高い（図表 1-72）。他の取組についてはいずれもこの差が3ポイントを下回っている。

図表 1-72 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	31.3%	62.5%	6.1%		.1%	100.0%
	変動率-5~5%	31.1%	62.2%	6.7%	.0%	.0%	100.0%
	5%以上増加	28.3%	64.7%	6.9%	.0%	.0%	100.0%
全体		30.2%	63.1%	6.6%	.0%	.0%	100.0%

(2) 教育・指導内容及び家庭学習に関する取組

国語 A と同様、「資料を使って発表ができるよう指導した」のような、資料の利活用に関する取組（図表 1-74）のほか、「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」「書く習慣を付ける授業を行った」といった、言語能力に意識を置いた授業の実施（図表 1-75, 図表 1-76）をよく行っている学校で、学力の底上げがなされているものと考えられる。他方で国語 A においては差のみられた「様々な文章を読む習慣を付ける授業を行った」については、D 層減少校と D 層増加校で、「よく行った」の回答割合の差は 3 ポイント未満と、差は小さく、国語 A において差のみられなかった「適切にノートをとるなど、学習方法に関する指導をした」については、D 層減少校と D 層増加校で、「よく行った」の回答割合の差は 4.5 ポイントと、差が大きい。

本項の中では「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った」という項目において、D 層減少校と D 層増加校の「よく行った」という回答割合の差が 5.4 ポイントで最も大きい（図表 1-75）。

図表 1-73 適切にノートをとるなど、学習方法に関する指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	50.8%	47.1%	2.0%		.1%	100.0%
	変動率-5~5%	50.6%	46.8%	2.5%	.0%	.0%	100.0%
	5%以上増加	46.3%	51.3%	2.4%			100.0%
全体		49.2%	48.4%	2.4%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-74 資料を使って発表ができるよう指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	17.7%	61.7%	20.2%	.4%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	17.4%	59.5%	22.8%	.2%	.0%	100.0%
	5%以上増加	14.2%	61.9%	23.6%	.3%		100.0%
全体		16.4%	60.8%	22.5%	.3%	.0%	100.0%

図表 1-75 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	17.7%	61.7%	20.2%	.4%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	17.4%	59.5%	22.8%	.2%	.0%	100.0%
	5%以上増加	14.2%	61.9%	23.6%	.3%		100.0%
全体		16.4%	60.8%	22.5%	.3%	.0%	100.0%

図表 1-76 書く習慣を付ける授業を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	35.6%	57.3%	6.8%	.2%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	35.6%	56.8%	7.3%	.2%	.1%	100.0%
	5%以上増加	30.9%	60.7%	8.2%	.2%	.0%	100.0%
全体		34.0%	58.2%	7.5%	.2%	.1%	100.0%

(3) その他

「学習規律の維持徹底」における「よく行った」の回答割合は、D層減少校とD層増加校の回答割合の差が8.9ポイントとなっており、本項にあげる取組の中で最も回答割合の差が大きい(図表 1-77)。この他に「講師を招聘した校内研修」(図表 1-78)についても、D層減少校とD層増加校の回答割合の差が7.4ポイントと、大きな差がみられる。更に「教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組を行っている」(図表 1-79)や「24年度全国学力・学習状況調査等の結果を利用し具体的な教育指導の改善を行った」(図表 1-80)という項目についても3ポイント以上の差がみられる。

図表 1-77 学習規律の維持を徹底した

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	67.5%	31.1%	1.3%		.1%	100.0%
	変動率-5~5%	65.1%	32.7%	2.1%	.0%	.0%	100.0%
	5%以上増加	58.6%	38.5%	2.8%	.0%		100.0%
全体		63.5%	34.3%	2.2%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-78 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語Bの D層割合 変化	5%以上減少	43.9%	42.2%	11.9%	2.0%		100.0%
	変動率-5~5%	40.3%	44.8%	13.1%	1.8%	.0%	100.0%
	5%以上増加	36.5%	46.1%	15.1%	2.3%		100.0%
全体		39.8%	44.7%	13.5%	2.0%	.0%	100.0%

図表 1-79 教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語BのD層割合変化	5%以上減少	43.6%	49.0%	7.2%		.2%	100.0%
	変動率-5~5%	42.0%	49.9%	7.8%	.0%	.2%	100.0%
	5%以上増加	39.9%	51.7%	8.2%	.0%	.2%	100.0%
全体		41.6%	50.3%	7.8%	.0%	.2%	100.0%

図表 1-80 24年度全国学力・学習状況調査等の結果を利用し具体的な教育指導の改善を行った

						合計
		よく行った	行った	ほとんど行っていない	その他・無回答	
国語BのD層割合変化	5%以上減少	20.7%	67.9%	11.3%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	18.5%	68.3%	13.1%	.1%	100.0%
	5%以上増加	16.7%	71.4%	11.9%	.1%	100.0%
全体		18.4%	69.2%	12.3%	.1%	100.0%

1-2-7 取組と成績の関係（中学校数学A）

(1) 生徒の意欲・関心を高める教育方法

「学級全体で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ」を生徒に与えること（図表 1-81）、また授業における「生徒の発言・活動機会の確保」（図表 1-82）が、学力の底上げにつながっているものと考えられる。

図表 1-81 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学AのD層割合変化	5%以上減少	27.1%	55.4%	17.2%	.2%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	25.9%	56.3%	17.6%	.1%	.1%	100.0%
	5%以上増加	23.6%	56.1%	20.0%	.3%		100.0%
全体		25.4%	56.0%	18.3%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-82 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学AのD層割合変化	5%以上減少	32.0%	61.7%	6.2%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	31.5%	62.2%	6.2%	.0%	.0%	100.0%
	5%以上増加	27.2%	65.3%	7.4%	.0%	.0%	100.0%
全体		30.2%	63.1%	6.6%	.0%	.0%	100.0%

(2) 教育・指導内容及び家庭学習に関する取組

「学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導」や「本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導」、「生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導」といった学習の仕方に関する指導(図表 1-83, 図表 1-84, 図表 1-85)の他、「補充的な学習の指導」についても、D層減少校とD層増加校の「よく行った」の割合に大きい差がみられる(図表 1-86)。このうち、「学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導」において、D層減少校とD層増加校の「よく行った」の割合の差が5.9ポイントで最も大きい(図表 1-83)。

また、家庭学習については「家庭学習の課題（長期休業の課題除く）について、評価・指導した」「家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた」といった、家庭学習の事前・事後のサポートに関する取組について、D層減少校とD層増加校の「よく行った」という回答割合に差がみられる(図表 1-87, 図表 1-88)。

図表 1-83 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学AのD層割合変化	5%以上減少	50.9%	46.7%	2.4%		.0%	100.0%
	変動率-5~5%	51.5%	46.2%	2.3%	.0%	.1%	100.0%
	5%以上増加	45.0%	52.5%	2.6%			100.0%
全体		49.2%	48.3%	2.4%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-84 本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学AのD層割合変化	5%以上減少	19.2%	59.1%	21.3%	.3%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	17.9%	58.8%	22.9%	.3%	.1%	100.0%
	5%以上増加	15.5%	59.2%	25.0%	.3%		100.0%
全体		17.4%	59.0%	23.2%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-85 生徒が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学AのD層割合変化	5%以上減少	21.0%	65.2%	13.6%	.1%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	21.7%	65.1%	13.1%	.1%	.1%	100.0%
	5%以上増加	17.5%	66.7%	15.7%	.1%		100.0%
全体		20.2%	65.7%	14.0%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-86 補充的な学習の指導を行った

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学Aの D層割合 変化	5%以上減少	29.2%	58.3%	11.2%	1.3%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	25.2%	60.1%	13.2%	1.4%	.1%	100.0%
	5%以上増加	25.6%	59.9%	12.9%	1.6%	.1%	100.0%
全体		26.3%	59.6%	12.6%	1.4%	.1%	100.0%

図表 1-87 家庭学習の課題（長期休業の課題除く）について、評価・指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学Aの D層割合 変化	5%以上減少	57.0%	38.3%	4.3%	.3%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	56.0%	39.6%	4.1%	.2%	.1%	100.0%
	5%以上増加	53.0%	42.0%	4.5%	.4%	.0%	100.0%
全体		55.3%	40.1%	4.3%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-88 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国・数共通）

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学Aの D層割合 変化	5%以上減少	29.1%	58.7%	11.5%	.3%	.4%	100.0%
	変動率-5~5%	27.8%	58.5%	13.0%	.3%	.5%	100.0%
	5%以上増加	25.2%	62.3%	11.7%	.4%	.4%	100.0%
全体		27.3%	59.8%	12.2%	.3%	.4%	100.0%

(3) その他

「学習規律の維持徹底」は、D層減少校とD層増加校の「よく行った」の回答割合の差が11ポイントと、大きな差となっている（図表 1-89）。この他、「講師を招聘するなどの校内研修」（図表 1-90）や、「教科内にとどまらない、組織的な指導力向上のための研修や取組」（図表 1-91）を「よく行っている」の回答割合についても、D層減少校の方が高い。

図表 1-89 学習規律の維持を徹底した

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学Aの D層割合 変化	5%以上減少	67.8%	30.3%	1.8%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	66.1%	32.2%	1.7%	.0%	.1%	100.0%
	5%以上増加	56.8%	40.1%	3.1%			100.0%
全体		63.5%	34.3%	2.2%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-90 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学AのD層割合変化	5%以上減少	42.4%	42.8%	13.0%	1.7%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	41.1%	44.5%	12.6%	1.8%		100.0%
	5%以上増加	36.2%	46.3%	14.9%	2.6%		100.0%
全体		39.8%	44.7%	13.5%	2.0%	.0%	100.0%

図表 1-91 教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学AのD層割合変化	5%以上減少	44.3%	47.7%	7.7%	.0%	.2%	100.0%
	変動率-5~5%	41.0%	51.5%	7.3%	.0%	.2%	100.0%
	5%以上増加	40.5%	50.7%	8.5%		.2%	100.0%
全体		41.6%	50.3%	7.8%	.0%	.2%	100.0%

1-2-8 取組と成績の関係（中学校数学B）

(1) 生徒の意欲・関心を高める教育方法

「生徒の発言・活動機会の確保」（図表 1-92）が、学力の底上げにつながっているものと考えられる点は、中学校数学 A と同様である。この他、「授業の冒頭で目標を生徒に示す活動」「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導」も、D 層減少校の方が増加校に比べて、「よく行った」と回答した割合が高い（図表 1-93、図表 1-94）。

図表 1-92 生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学BのD層割合変化	5%以上減少	29.8%	63.7%	6.5%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	31.8%	61.4%	6.6%	.1%	.1%	100.0%
	5%以上増加	26.5%	65.8%	7.7%			100.0%
全体		30.2%	63.1%	6.6%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-93 授業の冒頭で目標を生徒に示す活動を計画的に取り入れた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学BのD層割合変化	5%以上減少	44.4%	48.6%	6.9%	.1%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	43.0%	48.4%	8.4%	.2%	.1%	100.0%
	5%以上増加	41.4%	51.0%	7.0%	.6%		100.0%
全体		43.6%	48.8%	7.4%	.2%	.0%	100.0%

図表 1-94 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学Bの D層割合 変化	5%以上減少	35.2%	59.8%	4.9%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	37.4%	56.8%	5.6%	.1%	.1%	100.0%
	5%以上増加	31.7%	61.4%	6.9%			100.0%
全体		35.6%	59.0%	5.3%	.1%	.0%	100.0%

(2) 教育・指導内容及び家庭学習に関する取組

本項においては、「学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした」という項目について、「よく行った」という回答の割合の差がD層減少校とD層増加校の間で5.2ポイントと、最も大きい（図表 1-95）。また、中学校数学Aと異なり、「家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図った」（図表 1-96）について、D層減少校とD層増加校の「よく行った」という回答の割合の差が4.8ポイントと比較的大きい。

図表 1-95 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導をした

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学Bの D層割合 変化	5%以上減少	49.0%	48.4%	2.5%		.0%	100.0%
	変動率-5~5%	51.0%	46.9%	2.0%	.0%	.1%	100.0%
	5%以上増加	43.8%	53.1%	3.0%			100.0%
全体		49.2%	48.3%	2.4%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-96 家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学Bの D層割合 変化	5%以上減少	32.9%	46.3%	18.3%	2.4%	.1%	100.0%
	変動率-5~5%	31.5%	45.7%	20.1%	2.5%	.1%	100.0%
	5%以上増加	28.1%	49.6%	19.2%	3.0%		100.0%
全体		32.0%	46.4%	19.0%	2.5%	.1%	100.0%

(3) その他

「学習規律の維持徹底」は、D層減少校とD層増加校の「よく行った」という回答割合の差が13.5ポイントと、全ての取組の中で最も大きな差となっている（図表 1-97）。

この他、「学習指導と学習評価の計画の作成にあたっては教職員同士が協力し合っている」（図表 1-98）という項目についても、D層減少校とD層増加校の「よく行った」という回答割合の差が3.8ポイントとやや大きい。

図表 1-97 学習規律の維持を徹底した

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学Bの D層割合 変化	5%以上減少	66.1%	32.0%	1.9%	.0%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	61.9%	35.9%	2.1%		.1%	100.0%
	5%以上増加	52.6%	43.0%	4.3%			100.0%
全体		63.5%	34.3%	2.2%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-98 学習指導と学習評価の計画の作成にあたっては教職員同士が協力し合っている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学Bの D層割合 変化	5%以上減少	33.1%	59.8%	6.9%	.1%	.0%	100.0%
	変動率-5~5%	34.1%	59.1%	6.6%	.2%	.0%	100.0%
	5%以上増加	29.3%	59.2%	11.3%	.1%	.1%	100.0%
全体		33.1%	59.5%	7.2%	.1%	.0%	100.0%

1-2-9 低学力層の底上げに影響すると考えられる学校の取組

前項までに示した、学校の取組と低学力層の減少（底上げ）の関係を整理したものを図表 1-99（小学校）、図表 1-100（中学校）に示す。なお、国語 A-算数・数学 A に共通する取組、国語 B-算数・数学 B に共通する取組をそれぞれ太字で示している。

小学校（図表 1-99）についてみると、多くの部分が共通している。たとえば、「児童の発言や活動時間を確保する」や「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す」といった、児童に関心や充実感を持たせるような工夫は、国語-算数いずれの成績底上げにも効果があることが推測される。また、言語活動に関連する指導である「自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導」については算数 A でも効果がみられる。言語活動に関する事項は必ずしも国語だけでなく、算数にも影響している可能性がある。

図表 1-99 小学校における、低学力層底上げへの関連が推測される取組

	国語 A	算数 A
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動 ・授業の最後に学習したことを振り返る活動 ・児童の発言や活動の時間を確保 ・児童の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導 ・書く習慣を付ける授業 ・児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導 ・学級やグループで話し合う活動 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げ教育 ・家庭学習の出し方について，教職員で共通理解 ・保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけ ・学習規律（私語をしない，聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す ・児童の発言や活動の時間を確保 ・児童の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・資料を使って発表ができるよう指導 ・児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導 ・計算問題などの反復練習をする授業 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げ教育 ・家庭学習の課題の与え方について，教職員で共通理解 ・保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけ ・学習規律（私語をしない，聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用
	国語 B	算数 B
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動 ・授業の最後に学習したことを振り返る活動 ・児童の発言や活動の時間を確保 ・児童の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導 ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ ・書く習慣を付ける授業 ・児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導 ・本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くように指導 ・資料を使って発表ができるよう指導 ・学級やグループで話し合う活動 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げ教育 ・家庭学習の出し方について，教職員で共通理解 ・学習規律（私語をしない，聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す ・授業の最後に学習したことを振り返る活動 ・児童の発言や活動の時間を確保 ・児童の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導 ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ ・児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導 ・本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くように指導 ・学級やグループで話し合う活動 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・計算問題などの反復練習をする授業 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げ教育 ・家庭学習の課題の与え方について，教職員で共通理解 ・学習規律（私語をしない，聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用

中学校（図表 1-100）についてみると、国語／数学での共通する取組はやや少ないものの、「本やインターネットなどの資料の調べ方」「生徒の発言や活動の時間確保」「講師を招聘する等の校内研修」「指導力向上のための研修や取組」が、国語／数学に共通している。この他、国語においては「書く習慣」「文章を読む習慣」といった言語活動に関する事項が複数みられる。但し小学校における算数 A と同様、数学 A においても「自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導」の効果がみられ、言語活動に関する事項は必ずしも国語だけでなく、数学にも影響しているものと考えられる。

図表 1-100 中学校における、低学力層底上げへの関連が推測される取組

	国語 A	数学 A
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ ・生徒の発言や活動の時間を確保 ・生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導 ・生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 ・学級やグループで話し合う活動を授業などで行う ・本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導 ・資料を使って発表ができるよう指導 ・目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業 ・書く習慣を付ける授業 ・様々な文章を読む習慣を付ける授業 ・講師を招聘するなどの校内研修 ・指導力向上のための研修や取組 ・学習規律の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ ・生徒の発言や活動の時間を確保 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導 ・生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導 ・補充的な学習の指導 ・家庭学習の課題（長期休業の課題除く）について、評価・指導 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げながら指導 ・講師を招聘するなどの校内研修 ・指導力向上のための研修や取組 ・学習規律の維持
	国語 B	数学 B
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言や活動の時間を確保 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・資料を使って発表ができるよう指導 ・目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業 ・書く習慣を付ける授業 ・講師を招聘するなどの校内研修 ・指導力向上のための研修や取組 ・学習規律の維持 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言や活動の時間を確保 ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動 ・生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解 ・学習規律の維持 ・学習指導と学習評価の計画の作成にあたって教職員が協力し合っている

1-3 低学力層底上げを目的変数とした回帰分析

特定の取組を行っている場合に、これを行っていない場合と比べて学力層 D 層が少ないケースについて詳細に把握するための回帰分析を行った。

1-3-1 分析条件

分析にあたって以下の条件を付している。

(条件 1) 実施状況に偏りがあるような(例えば選択肢が四つの場合で、「あまり行っていない」「全く行っていない」を選択した学校が全体の 1 割未満の場合、すなわち大部分の学校が積極的に取り組んでいる) 取組は除外する

(条件 2) 調査参加児童 40 名未満の学校は除外する

(条件 3) 平成 21 年と平成 25 年の両方で設定されている調査項目を対象とする

以上の条件のもと、平成 21 年から 25 年にかけての、各種取組割合の変化量(たとえば、全く取り組んでいない「4」から、積極的に取り組んでいる「1」に変化した場合、変化量 3 とする。但し、設問により選択肢数が異なるため、これらを標準化)と、平成 21 年から 25 年にかけての D 層児童の減少割合(国語 A,国語 B, 算数 A, 算数 B の減少割合の平均値)との関係につき回帰分析を行った。

なお、中学校においては、十分な説明力を有する回帰分析結果とならなかったため、ここでは小学校についての回帰分析結果のみを示す。

1-3-2 結果

投入した取組要素（説明変数）の内訳は図表 1-101 のとおりである。

図表 1-101 投入した取組要素（説明変数）

さまざまな文章を読む	将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導
書く習慣を付ける	博物館や科学館，図書館を利用した授業
朝の読書等の活動	実生活における事象との関連を図った授業
家庭学習の与え方への共通理解	地域人材・外部講師活用
目的や相手に応じた授業	外部研修への積極的参加
補充的な学習	研修成果の積極的活用

線形回帰分析の結果につき，関係統計量を次頁の図表 1-102 に示す。

目的変数を D 層児童の減少率とし，12 の取組要素を説明変数としてステップワイズ法（投入基準は F の確率 ≤ 0.05 ，除去基準は F の確率 ≥ 0.1 ）により投入したところ，投入した全ての説明変数が，D 層児童の減少に対する影響力を有している¹。

図表 1-102 に示した回帰分析結果は，影響力の高い順に 1 つずつ，取組要素（説明変数）を投入しているものであり，影響力の高い上位 3 変数「さまざまな文章を読む授業の活発化」「実生活における事象との関連を扱った授業の活発化」「地域人材・外部講師の活用の活発化」まで（モデル 3）で調整済み R 二乗値は 0.635，「家庭学習の与え方への共通理解の活発化」までを投入した段階（モデル 4）で，調整済み R 二乗値は 0.713 となっており，これらが特に高い影響力を有しているといえる。また，次頁の図表 1-103 に示すように，モデル 4 における標準回帰係数は，「さまざまな文章を読む」が 0.394，「実生活における事象との関連を図った授業」が 0.334，「地域人材・外部講師の活用」が 0.322，「家庭学習の与え方への共通理解」が 0.288 であった。

¹ 図表中の「調整済み R² 乗」値が，D 層児童の減少に与える影響力の大きさを示す。すなわち，この値が 0.5 であれば，目的変数の変動のうちの 50%を，投入した変数によって説明することができるものである。但し，回帰分析結果においては，投入した変数の効果が累積されている点に注意を要する。

図表 1-102 線形回帰分析結果（決定係数等）

モデル	R		R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
	※40名以上の調査校のみ対象				
1	.599 ^a	.359	.359	4.16069	
2	.720 ^b	.518	.518	3.60799	
3	.797 ^c	.635	.635	3.13954	
4	.844 ^d	.713	.713	2.78369	
5	.879 ^e	.772	.772	2.48034	
6	.908 ^f	.825	.825	2.17215	
7	.931 ^g	.867	.867	1.89304	
8	.951 ^h	.903	.903	1.61498	
9	.966 ⁱ	.933	.933	1.34506	
10	.980 ^j	.960	.960	1.03333	
11	.992 ^k	.983	.983	.66914	
12	1.000 ^l	1.000	1.000	0.00000	

- a. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む。
- b. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業。
- c. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用。
- d. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用、家庭学習の与え方への共通理解。
- e. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用、家庭学習の与え方への共通理解、研修成果の積極的活用地域人材・外部講師活用。
- f. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用、家庭学習の与え方への共通理解、研修成果の積極的活用地域人材・外部講師活用、補充的な学習。
- g. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用、家庭学習の与え方への共通理解、研修成果の積極的活用地域人材・外部講師活用、補充的な学習、博物館や科学館、図書館を利用した授業地域人材・外部講師活用。
- h. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用、家庭学習の与え方への共通理解、研修成果の積極的活用地域人材・外部講師活用、補充的な学習、博物館や科学館、図書館を利用した授業地域人材・外部講師活用、目的や相手に応じた授業。
- i. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用、家庭学習の与え方への共通理解、研修成果の積極的活用地域人材・外部講師活用、補充的な学習、博物館や科学館、図書館を利用した授業地域人材・外部講師活用、目的や相手に応じた授業、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導。
- j. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用、家庭学習の与え方への共通理解、研修成果の積極的活用地域人材・外部講師活用、補充的な学習、博物館や科学館、図書館を利用した授業地域人材・外部講師活用、目的や相手に応じた授業、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導、朝の読書等の活動。
- k. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用、家庭学習の与え方への共通理解、研修成果の積極的活用地域人材・外部講師活用、補充的な学習、博物館や科学館、図書館を利用した授業地域人材・外部講師活用、目的や相手に応じた授業、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導、朝の読書等の活動、外部研修への積極的参加地域人材・外部講師活用。
- l. 予測値：（定数）、さまざまな文章を読む、実生活における事象との関連を図った授業、地域人材・外部講師活用、家庭学習の与え方への共通理解、研修成果の積極的活用地域人材・外部講師活用、補充的な学習、博物館や科学館、図書館を利用した授業地域人材・外部講師活用、目的や相手に応じた授業、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導、朝の読書等の活動、外部研修への積極的参加地域人材・外部講師活用、書く習慣。

図表 1-103 モデル4における回帰分析結果

	回帰係数	標準誤差	標準回帰係数
さまざまな文章を読む	2.420	.033	.394*
実生活における事象との関連を図った授業	2.027	.033	.334*
地域人材・外部講師	1.700	.028	.322*
家庭学習の与え方への共通理解	1.567	.029	.288*
決定係数 R ²	.713*		

*:p<.001

1-4 学校別無解答率の分析

平成 25 年調査における、児童・生徒の無解答率（学校平均値）の高い学校、低い学校について、取組の比較を行った。無解答率の分布状況は図表 1-104（小学校）及び図表 1-105（中学校）のとおりであった。

なお無解答率の分析にあたっては、40 名以上の回答データがある学校のみ（小学校 11,601 校 中学校 7,791 校）を対象としている。ここで分布状況から、四分位による区分では無解答率の差が小さくなってしまいうため、顕著な特徴を見出す目的から、八分位による区分を行う。その上で児童・生徒を無解答率の「低い層」（無解答率の低い方から 12.5% 未満、第 1 八分位）「やや低い層」（無解答率の低い方から 12.5%以上 50%未満）、「やや高い層」（無解答率の低い方から 50%以上 87.5%未満）、「高い層」（無解答率の低い方から 87.5%以上、第 8 八分位）の 4 グループに分類し、「低い層」「高い層」に注目して、学校を取組との相関関係を分析するものである。

なお、原則として、無解答率が「低い層」「高い層」の相互で、各取組を「よく行った」「よくしている」等、最も積極的に取り組んでいることを示す選択肢の割合に 10%以上の比率差があるものを示す。

図表 1-104 分析対象校における児童 1 人あたり科目別無解答数の分布（小学校）

児童1人あたり無解答数	国語A		国語B		算数A			算数B			
	該当学校数	累積%	児童1人あたり無解答数	該当学校数	累積%	児童1人あたり無解答数	該当学校数	累積%	児童1人あたり無解答数	該当学校数	累積%
～0.1	6	0.1%	～0.1	16	0.1%	～0.05	1136	9.8%	～0.1	111	1.0%
～0.2	13	0.2%	～0.2	45	0.5%	～0.1	1112	19.4%	～0.2	274	3.3%
～0.3	31	0.4%	～0.3	82	1.2%	～0.15	1131	29.1%	～0.3	521	7.8%
～0.4	47	0.8%	～0.4	120	2.3%	～0.2	1173	39.2%	～0.4	773	14.5%
～0.5	72	1.5%	～0.5	195	3.9%	～0.25	1078	48.5%	～0.5	1024	23.3%
～0.6	91	2.2%	～0.6	283	6.4%	～0.3	927	56.5%	～0.6	1100	32.8%
～0.7	143	3.5%	～0.7	387	9.7%	～0.35	823	63.6%	～0.7	1214	43.2%
～0.8	182	5.0%	～0.8	520	14.2%	～0.4	722	69.8%	～0.8	1128	53.0%
～0.9	247	7.2%	～0.9	652	19.8%	～0.45	621	75.2%	～0.9	1080	62.3%
～1.0	328	10.0%	～1.0	752	26.3%	～0.5	563	80.0%	～1.0	1011	71.0%
～1.5	2404	30.7%	～1.5	4155	62.1%	～0.55	379	83.3%	～1.5	2523	92.7%
～2.0	3057	57.1%	～2.0	2913	87.2%	～0.6	404	86.8%	～2.0	665	98.5%
～2.5	2435	78.1%	～2.5	1093	96.7%	～0.65	275	89.2%	～2.5	137	99.7%
～3.0	1408	90.2%	～3.0	300	99.2%	～0.7	218	91.0%	～3.0	35	100.0%
～3.5	734	96.5%	～3.5	71	99.9%	～0.75	198	92.8%	～3.5	1	100.0%
～4.0	272	98.9%	～4.0	14	100.0%	～0.8	161	94.1%	～4.0	1	100.0%
4.0～	131	100.0%	4.0～	3	100.0%	0.8～	680	100.0%	4.0～	3	100.0%

図表 1-107 授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	50.3%	44.6%	5.0%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	43.8%	50.1%	6.0%		.1%
	やや高い(1/2～7/8)	36.7%	54.3%	9.0%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	32.3%	55.2%	12.3%	.1%	
全体		40.5%	51.6%	7.8%	.0%	.1%

図表 1-108 考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	43.4%	53.2%	3.2%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	35.8%	60.2%	3.8%		.1%
	やや高い(1/2～7/8)	31.1%	63.6%	5.1%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	30.9%	61.2%	7.9%	.1%	
全体		34.4%	60.7%	4.7%	.0%	.1%

図表 1-109 児童の発言や活動の時間の確保

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	51.7%	46.6%	1.5%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	46.7%	51.1%	2.0%		.1%
	やや高い(1/2～7/8)	40.7%	56.4%	2.8%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	38.0%	57.3%	4.7%		
全体		44.0%	53.3%	2.6%	.0%	.1%

図表 1-110 学習規律の維持の徹底

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	68.5%	30.1%	1.2%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	65.6%	32.7%	1.6%		.1%
	やや高い(1/2～7/8)	58.6%	38.2%	3.0%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	53.8%	41.8%	4.3%	.1%	
全体		61.9%	35.6%	2.4%	.0%	.1%

図表 1-111 学習方法に関する指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	62.6%	35.6%	1.7%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	59.2%	39.1%	1.5%		.1%
	やや高い(1/2～7/8)	51.9%	45.5%	2.5%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	44.8%	52.0%	3.1%		.1%
全体		55.1%	42.7%	2.1%	.0%	.1%

図表 1-112 学級やグループで話し合う活動

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	55.4%	42.1%	2.3%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	52.1%	45.1%	2.7%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	47.5%	49.0%	3.4%		.1%	100.0%
	高い(7/8～)	44.8%	49.1%	6.1%			100.0%
全体		49.9%	46.7%	3.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-113 児童が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	35.4%	58.8%	5.7%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	30.5%	62.3%	7.1%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	24.8%	65.3%	9.8%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	21.8%	64.4%	13.8%			100.0%
全体		27.9%	63.3%	8.8%	.0%	.1%	100.0%

(2) 指導内容

指導方法については科目別の調査項目が多く設定されているが、言語能力に関する「書く習慣」「漢字・語句」「読む習慣」といった指導のうち、「書く習慣を付ける授業」の項目について、無解答率の低い学校と高い学校において、「よく行った」の回答割合に10ポイント以上の差があった(図表 1-114)。無解答率が低い学校ほど書く習慣づけをしっかりと行っている傾向がみられた。

図表 1-114 書く習慣を付ける授業

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	34.9%	57.7%	7.3%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	29.9%	61.4%	8.5%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	25.0%	64.6%	10.2%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	21.0%	64.6%	14.1%	.3%		100.0%
全体		27.6%	62.6%	9.7%	.1%	.1%	100.0%

(3) 家庭学習

家庭学習のうち国語科特有のもの、国語・算数共通質問それぞれについて確認した。図表 1-115 から図表 1-119 に示す5種の取組について、無解答率が低い学校と高い学校の間で「よく行った」の回答割合に10ポイント以上の差がみられた。特に「保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った」や「家庭での学習指導方法を具体例を挙げながら教えた」については、無解答率が低い学校と高い学校の間で「よく行った」という回答の割合に15ポイント以上の差がある(図表 1-115, 図表 1-116)。

図表 1-115 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	58.8%	38.3%	2.9%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	55.1%	40.6%	4.1%	.0%	.2%
	やや高い(1/2～7/8)	49.4%	45.7%	4.7%	.1%	.1%
	高い(7/8～)	46.1%	48.8%	5.0%	.1%	
全体		52.3%	43.3%	4.3%	.1%	.1%

図表 1-116 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

						合計
		当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまる	どちらかといえ ば、当てはまらな い	当てはまらない	その他・無回答
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	49.7%	41.5%	8.1%	.6%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	41.9%	46.2%	11.0%	.8%	.2%
	やや高い(1/2～7/8)	35.4%	49.9%	13.6%	.9%	.1%
	高い(7/8～)	34.6%	46.8%	17.7%	.9%	
全体		39.5%	47.1%	12.4%	.8%	.1%

図表 1-117 家庭学習の課題について評価・指導した

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	65.7%	31.3%	2.8%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	60.8%	36.2%	2.6%	.1%	.2%
	やや高い(1/2～7/8)	55.9%	40.4%	3.3%	.2%	.1%
	高い(7/8～)	52.6%	42.5%	4.8%	.1%	
全体		58.6%	38.0%	3.2%	.2%	.1%

図表 1-118 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出した(国語・算数共通質問)

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	23.2%	55.9%	20.6%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	19.3%	59.2%	21.1%	.2%	.2%
	やや高い(1/2～7/8)	15.5%	58.4%	25.7%	.2%	.1%
	高い(7/8～)	12.7%	54.6%	32.3%	.3%	.1%
全体		17.6%	57.9%	24.2%	.2%	.1%

図表 1-119 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた(国語・算数共通質問)

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	40.3%	52.8%	6.6%	.2%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	32.4%	59.0%	8.3%	.0%	.3%
	やや高い(1/2～7/8)	28.9%	60.1%	10.6%	.2%	.2%
	高い(7/8～)	24.9%	61.1%	13.6%	.3%	.1%
全体		31.2%	58.9%	9.6%	.2%	.2%

(4) 地域の人材・施設の活用

地域の人材・施設の活用に関しては無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よく行った」の回答割合に10ポイント以上の差は見られなかった。

(5) 教職員の取組（研修除く）

教職員の取組のうち研修以外についてみると、図表 1-120 から図表 1-122 の3項目について無解答率が低い学校ほど、積極的に取り組んでいる場合が多い。特に、「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している」については、「よくしている」という回答の割合は無解答率の高い学校群に比べ、低い学校群は16.1ポイント高く、この傾向が顕著である（図表 1-122）。学校全体の学力傾向や課題についての共有を積極的に行うことは、国語Aの無解答率を下げる上で重要な取組といえる。

図表 1-120 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語A 無解答率	低い（～上位1/8）	35.4%	56.5%	7.7%	.3%		100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	31.3%	57.4%	10.8%	.4%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	27.6%	59.0%	12.9%	.5%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	23.7%	59.6%	16.1%	.7%		100.0%
全体		29.5%	58.2%	11.9%	.4%	.0%	100.0%

図表 1-121 学校の教育目標やその達成に向けた方策について全教職員の間で共有し、取組にあたっている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語A 無解答率	低い（～上位1/8）	68.0%	31.5%	.5%			100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	61.6%	37.2%	1.1%		.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	55.8%	42.9%	1.1%	.0%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	57.4%	40.6%	1.8%		.2%	100.0%
全体		59.7%	39.0%	1.1%	.0%	.2%	100.0%

図表 1-122 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語A 無解答率	低い（～上位1/8）	64.3%	34.8%	1.0%			100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	56.3%	41.3%	2.2%		.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	49.5%	47.2%	3.1%	.1%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	48.2%	47.4%	4.1%		.2%	100.0%
全体		53.7%	43.5%	2.6%	.0%	.2%	100.0%

(6) 教員研修

教育研修に関しては「模擬授業や事例研究など、実践的な研修」「学校外での研修への積極的参加」の2種の取組について、無解答率が低い学校ほど積極的に取り組んでいる（図表 1-123、図表 1-124）。

図表 1-123 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている

		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	合計
国語A 無解答率	低い（～上位1/8）	67.2%	28.8%	4.0%	.1%		100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	63.6%	31.9%	4.4%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	60.6%	34.7%	4.6%	.1%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	56.5%	37.5%	5.9%	.1%		100.0%
全体		62.0%	33.2%	4.6%	.1%	.0%	100.0%

図表 1-124 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	合計
国語A 無解答率	低い（～上位1/8）	59.5%	37.4%	3.0%	.1%		100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	54.9%	42.3%	2.6%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	50.8%	45.5%	3.6%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	48.1%	47.5%	4.3%			100.0%
全体		53.1%	43.5%	3.2%	.0%	.1%	100.0%

1-4-2 学校別無解答率の分析（小学校国語B）

(1) 指導方法

指導方法等についてみると、以下に示す11個の取組いずれも、無解答率の低い学校ほど「よく行った」という回答が多い。この他に、無解答率の低い学校群は、高い学校群に比べて「考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導」（図表 1-127）をよく行っている割合が17.9ポイント、「児童の発言や活動の時間の確保」（図表 1-128）をよく行っている割合が17.4ポイント高い等、思考力の涵養かんに関する取組を積極的に行っているのが特徴的である。

また、国語Aとの傾向が異なる点として、無解答率が低い学校ほど「総合学習における、課題の設定から始まる探求の過程を意識した指導」をよく行っている（図表 1-135）。

図表 1-125 授業の冒頭における目標の提示

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	69.6%	28.1%	2.0%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	62.0%	35.3%	2.6%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	54.3%	41.1%	4.4%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	46.3%	48.1%	5.5%		.1%	100.0%
全体		58.1%	38.2%	3.6%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-126 授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	49.5%	45.7%	4.5%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	43.6%	50.4%	5.9%		.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	37.6%	52.9%	9.4%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	30.9%	57.1%	12.0%		.1%	100.0%
全体		40.5%	51.6%	7.8%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-127 考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	44.6%	52.0%	3.2%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	35.7%	60.4%	3.9%	.0%	.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	32.3%	62.6%	5.0%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	26.7%	64.9%	8.3%	.1%	.1%	100.0%
全体		34.4%	60.7%	4.7%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-128 児童の発言や活動の時間の確保

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	52.0%	46.3%	1.4%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	47.3%	50.6%	2.1%		.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	41.2%	56.1%	2.7%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	34.6%	60.2%	5.1%		.1%	100.0%
全体		44.0%	53.3%	2.6%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-129 学習規律の維持の徹底

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	68.6%	29.9%	1.4%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	66.3%	32.2%	1.5%		.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	58.9%	38.1%	2.9%		.1%	100.0%
	高い(7/8～)	50.9%	44.0%	5.0%	.1%	.1%	100.0%
全体		61.9%	35.6%	2.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-130 学習方法に関する指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	63.1%	35.2%	1.6%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	59.9%	38.5%	1.6%		.0%
	やや高い(1/2～7/8)	51.8%	45.9%	2.2%		.1%
	高い(7/8～)	42.6%	53.1%	4.1%	.1%	.1%
全体		55.1%	42.7%	2.1%	.0%	.1%

図表 1-131 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	43.2%	50.8%	5.7%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	39.9%	52.8%	7.2%	.0%	.0%
	やや高い(1/2～7/8)	35.7%	54.9%	9.3%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	30.0%	57.3%	12.7%		.1%
全体		37.5%	53.9%	8.5%	.0%	.1%

図表 1-132 学級やグループで話し合う活動

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	56.8%	40.9%	2.1%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	52.8%	44.5%	2.6%	.0%	.0%
	やや高い(1/2～7/8)	47.6%	48.8%	3.5%		.1%
	高い(7/8～)	40.9%	52.4%	6.7%		.1%
全体		49.9%	46.7%	3.4%	.0%	.1%

図表 1-133 資料を使って発表できるよう指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	27.0%	62.4%	10.3%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	26.5%	62.6%	10.8%	.0%	.0%
	やや高い(1/2～7/8)	21.7%	64.0%	14.1%	.1%	.1%
	高い(7/8～)	16.5%	64.0%	19.3%	.1%	.1%
全体		23.5%	63.3%	13.0%	.1%	.1%

図表 1-134 児童が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	36.7%	57.9%	5.2%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	31.0%	62.0%	6.9%		.0%
	やや高い(1/2～7/8)	24.7%	65.3%	9.9%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	19.2%	66.1%	14.6%	.1%	.1%
全体		27.9%	63.3%	8.8%	.0%	.1%

図表 1-135 総合学習における、課題の設定から始まる探求の過程を意識した指導

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	29.2%	54.8%	15.7%	.1%	.3%
	やや低い(1/8～1/2)	26.6%	55.8%	17.4%	.1%	.2%
	やや高い(1/2～7/8)	22.7%	56.2%	20.7%	.2%	.2%
	高い(7/8～)	17.4%	56.4%	26.0%	.2%	.1%
全体		24.3%	55.9%	19.5%	.1%	.2%

(2) 指導内容

指導方法については科目別の調査項目が多く設定されているが図表 1-136 の「目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業」、また、国語 A と同様に「書く習慣を付ける授業」(図表 1-137) の 2 種の取組については、無解答率が低い学校ほどよく行っている傾向がある。特に図表 1-137 の「書く習慣を付ける授業」をよく行っている学校の割合は、無解答率が低い学校と高い学校の間で 17.8 ポイントと大きな差が出ている。

図表 1-136 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	27.9%	63.2%	8.6%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	22.4%	68.4%	9.0%	.2%	.0%
	やや高い(1/2～7/8)	20.6%	67.8%	11.4%	.2%	.1%
	高い(7/8～)	17.6%	66.2%	15.9%	.3%	.1%
全体		21.8%	67.3%	10.7%	.2%	.1%

図表 1-137 書く習慣を付ける授業

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	37.4%	55.7%	6.8%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	29.3%	62.0%	8.6%	.1%	.0%
	やや高い(1/2～7/8)	25.2%	64.1%	10.5%	.1%	.1%
	高い(7/8～)	19.6%	66.6%	13.6%	.2%	.1%
全体		27.6%	62.6%	9.7%	.1%	.1%

(3) 家庭学習

家庭学習のうち国語科特有のもの、国語・算数共通質問それぞれについて確認したところ、国語 A と同様、下に示す 5 項目について無解答率の低い学校ほど「よく行った」と回答している。特に「家庭学習の課題について評価・指導した」という項目について、「よく行った」と回答した割合は、無解答率が低い学校と高い学校の間で 15.7 ポイントとなって

おり（図表 1-140）、図表 1-138 から図表 1-142 に示す他の取組に比べて大きい差となっている。

図表 1-138 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	58.8%	38.0%	3.0%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	54.1%	41.5%	4.3%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	50.3%	45.0%	4.5%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	46.3%	48.5%	5.0%	.1%	.1%	100.0%
全体		52.3%	43.3%	4.3%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-139 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

							合計
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	47.5%	42.8%	8.8%	.7%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	41.7%	46.2%	11.2%	.9%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	36.1%	49.3%	13.8%	.8%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	35.4%	47.6%	15.9%	1.0%	.1%	100.0%
全体		39.5%	47.1%	12.4%	.8%	.1%	100.0%

図表 1-140 家庭学習の課題について評価・指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	65.7%	31.2%	2.7%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	60.8%	36.6%	2.4%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	56.8%	39.2%	3.6%	.2%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	50.0%	45.0%	4.8%	.1%	.1%	100.0%
全体		58.6%	38.0%	3.2%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-141 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出した（国語・算数共通質問）

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	22.7%	57.1%	19.9%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	19.9%	59.2%	20.6%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	15.1%	57.7%	26.8%	.2%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	12.6%	55.6%	31.2%	.4%	.1%	100.0%
全体		17.6%	57.9%	24.2%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-142 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国語・算数共通質問）

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	38.7%	54.4%	6.4%	.1%	.3%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	33.3%	58.0%	8.5%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	28.4%	60.4%	10.7%	.2%	.3%	100.0%
	高い（7/8～）	25.7%	61.3%	12.6%	.3%	.1%	100.0%
全体		31.2%	58.9%	9.6%	.2%	.2%	100.0%

(4) 地域の人材・施設の活用

地域の人材・施設の活用に関しては無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よく行った」と回答した割合に10ポイント以上の差は見られなかった。

(5) 教職員の取組（研修除く）

教職員の取組のうち研修以外についてみると、図表 1-143 から図表 1-146 の4項目について無解答率が低い学校ほど、積極的に取り組んでいる割合が高い。このうち、「言語活動に重点を置いた指導計画を作成している」（図表 1-144）については、無解答率が低い学校と高い学校の間で、「よくしている」と回答した割合の差が13.7ポイントで最も大きい。

図表 1-143 学習指導・学習評価の計画の作成にあたり教職員同士が協力し合っている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	49.4%	47.7%	2.9%			100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	43.5%	52.4%	4.0%		.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	40.4%	55.0%	4.5%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	36.2%	57.5%	6.3%			100.0%
全体		42.2%	53.4%	4.3%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-144 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	35.9%	55.4%	8.5%	.2%		100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	31.7%	57.4%	10.4%	.5%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	27.5%	58.5%	13.4%	.5%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	22.2%	62.1%	15.1%	.6%		100.0%
全体		29.5%	58.2%	11.9%	.4%	.0%	100.0%

図表 1-145 学校の教育目標やその達成に向けた方策について全教職員の間で共有し、
取組にあっている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	67.4%	32.0%	.5%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	62.0%	36.9%	1.0%		.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	56.8%	42.0%	1.0%	.0%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	54.0%	43.6%	2.0%		.3%	100.0%
全体		59.7%	39.0%	1.1%	.0%	.2%	100.0%

図表 1-146 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	62.1%	36.5%	1.3%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	56.2%	41.3%	2.3%	.0%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	49.3%	47.4%	3.1%	.0%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	51.1%	45.3%	3.2%		.3%	100.0%
全体		53.7%	43.5%	2.6%	.0%	.2%	100.0%

(6) 教員研修

教育研修に関しては、国語 A と同様「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている」については、無解答率が低い学校ほど積極的に取り組んでいる（図表 1-147）。

また、国語 A と異なり「職員は校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」については、無解答率の低い学校と高い学校との間で、「よくしている」の割合の差は 10 ポイント未満であった一方で、「教職員は校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」は 11.6 ポイントの差がみられる（図表 1-148）。

図表 1-147 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	58.8%	38.6%	2.6%	.1%		100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	55.1%	41.8%	2.9%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	51.5%	44.9%	3.5%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	46.2%	49.7%	4.1%			100.0%
全体		53.1%	43.5%	3.2%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-148 教職員は校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	39.2%	56.8%	3.9%	.1%		100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	33.9%	61.4%	4.6%		.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	29.6%	63.7%	6.6%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	27.6%	65.3%	7.2%			100.0%
全体		32.2%	62.2%	5.6%	.0%	.1%	100.0%

1-4-3 学校別無解答率の分析(小学校算数A)

(1) 指導方法

まず指導方法等についてみると、以下の図表 1-149 から図表 1-156 に示す 8 種類の取組につき、無解答率が低い学校ほど、「よく行った」と回答している割合が高い傾向がみられる。このうち、特に図表 1-149 の「授業の冒頭における目標の提示」で、無解答率が低い学校ほど、「よく行った」と回答している割合が高く、無解答率の高い学校では 47.3%に留まるのに対し、低い学校では 66.2%となっており、18.9 ポイントの差となっている。また、図表 1-153 の「学習規律の維持徹底」についても、無解答率の高い学校では 51.1%に留まるのに対し、低い学校では 69.5%が「よく行った」と回答していて、無解答率による傾向の差が大きい。

図表 1-149 授業の冒頭における目標の提示

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	66.2%	30.9%	2.7%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	62.5%	34.8%	2.6%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	54.6%	41.1%	4.3%		.0%	100.0%
	高い(7/8～)	47.3%	47.3%	5.3%		.1%	100.0%
全体		58.1%	38.2%	3.6%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-150 授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	48.6%	46.4%	4.8%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	43.1%	50.5%	6.3%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	37.8%	53.3%	8.8%		.0%	100.0%
	高い(7/8～)	32.5%	54.9%	12.4%	.1%	.1%	100.0%
全体		40.5%	51.6%	7.8%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-151 考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	41.7%	55.0%	3.2%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	36.5%	59.7%	3.7%	.0%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	32.1%	62.7%	5.1%		.0%
	高い(7/8～)	27.8%	63.7%	8.3%	.1%	.1%
全体		34.4%	60.7%	4.7%	.0%	.1%

図表 1-152 児童の発言や活動の時間の確保

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	50.4%	47.7%	1.7%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	46.5%	51.4%	2.0%	.0%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	42.0%	55.4%	2.6%		.0%
	高い(7/8～)	36.0%	58.8%	5.0%		.1%
全体		44.0%	53.3%	2.6%	.0%	.1%

図表 1-153 学習規律の維持の徹底

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	69.5%	29.1%	1.2%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	64.9%	33.5%	1.5%		.1%
	やや高い(1/2～7/8)	59.9%	37.3%	2.8%	.0%	.0%
	高い(7/8～)	51.1%	43.3%	5.4%	.1%	.1%
全体		61.9%	35.6%	2.4%	.0%	.1%

図表 1-154 学習方法に関する指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	62.9%	35.4%	1.6%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	58.7%	39.7%	1.5%		.1%
	やや高い(1/2～7/8)	52.5%	45.1%	2.4%		.0%
	高い(7/8～)	44.4%	51.7%	3.7%	.1%	.2%
全体		55.1%	42.7%	2.1%	.0%	.1%

図表 1-155 学級やグループで話し合う活動

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	55.6%	41.6%	2.6%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	52.1%	45.1%	2.7%	.0%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	48.2%	48.2%	3.5%		.0%
	高い(7/8～)	42.3%	51.9%	5.7%		.1%
全体		49.9%	46.7%	3.4%	.0%	.1%

図表 1-156 児童が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	34.4%	59.4%	6.1%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	30.0%	62.4%	7.4%		.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	25.6%	64.3%	10.0%	.0%	.0%	100.0%
	高い(7/8～)	21.5%	66.6%	11.8%		.1%	100.0%
全体		27.9%	63.3%	8.8%	.0%	.1%	100.0%

(2) 指導内容

指導方法については、無解答率の低い学校ほど「補充的な学習の指導」を積極的に行っている場合が多く、無解答率が高い学校では「よく行った」との回答が21.7%に留まるのに対し、無解答率が低い学校では35.4%が「よく行った」と回答している。

図表 1-157 補充的な学習の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	35.4%	53.7%	9.5%	1.3%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	31.6%	56.5%	10.5%	1.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	27.0%	57.9%	13.4%	1.7%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	21.7%	60.9%	15.4%	1.9%	.1%	100.0%
全体		29.1%	57.2%	12.1%	1.5%	.1%	100.0%

(3) 家庭学習

家庭学習については、図表 1-158 から図表 1-161 に示す4種の取組で、無解答率が低い学校と高い学校の間で「よく行った」という回答の割合に10ポイント以上の差がみられた。

このうち最も差が大きかったのは「家庭学習の課題について評価・指導した」(図表 1-160)であり、無解答率が高い学校に比べ、低い学校では「よく行った」の割合が14.2ポイント高かった。

図表 1-158 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	59.4%	37.5%	3.1%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	55.1%	40.8%	3.9%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	50.4%	45.2%	4.4%		.1%	100.0%
	高い(7/8～)	46.9%	47.5%	5.3%	.2%	.1%	100.0%
全体		52.8%	42.9%	4.2%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-159 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

						合計	
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	47.6%	42.1%	9.4%	.8%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	42.7%	45.8%	10.7%	.7%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	36.6%	48.7%	13.5%	1.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	35.3%	46.9%	16.7%	1.0%	.1%	100.0%
全体		40.1%	46.6%	12.3%	.9%	.1%	100.0%

図表 1-160 家庭学習の課題について評価・指導した

						合計	
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	66.4%	31.4%	2.0%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	60.6%	36.5%	2.6%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	56.9%	39.5%	3.4%	.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	52.2%	42.7%	4.8%	.2%	.1%	100.0%
全体		58.9%	37.8%	3.1%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-161 家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えた(国語・算数共通質問)

						合計	
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	37.6%	55.1%	6.9%	.1%	.3%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	33.3%	57.9%	8.5%	.1%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	28.8%	60.4%	10.5%	.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	25.6%	61.0%	12.7%	.3%	.3%	100.0%
全体		31.2%	58.9%	9.6%	.2%	.2%	100.0%

(4) 地域の人材・施設の活用

地域の人材・施設の活用に関しては無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よく行った」の回答割合に10ポイント以上の差は見られなかった。

(5) 教職員の取組(研修除く)

教職員の取組のうち研修以外についてみると、図表 1-162 から図表 1-164 に示す3項目について、無解答率の低い学校ほど「よくしている」と回答している割合が高い。このうち「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している」については、無解答率の低い学校と高い学校とで、「よくしている」の回答割合の差が14.6ポイントと特に大きい(図表 1-164)。

図表 1-162 学習指導・学習評価の計画の作成にあたり教職員同士が協力し合っている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	47.1%	49.7%	3.2%			100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	43.5%	52.8%	3.6%		.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	41.0%	54.0%	5.0%		.0%	100.0%
	高い(7/8～)	36.7%	57.5%	5.6%	.1%		100.0%
全体		42.2%	53.4%	4.3%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-163 学校の教育目標やその達成に向けた方策について全教職員の間で共有し、
取組にあっている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	66.3%	33.1%	0.7%			100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	60.7%	38.2%	0.9%		.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	58.4%	40.4%	1.1%		.2%	100.0%
	高い(7/8～)	54.1%	43.6%	2.0%	.1%	.2%	100.0%
全体		59.7%	39.0%	1.1%	.0%	.2%	100.0%

図表 1-164 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	61.7%	37.2%	1.0%	.1%		100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	55.9%	41.8%	2.1%		.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	51.1%	45.6%	3.1%	.0%	.2%	100.0%
	高い(7/8～)	47.1%	48.6%	4.1%		.2%	100.0%
全体		53.7%	43.5%	2.6%	.0%	.2%	100.0%

(6) 教員研修

教育研修に関しては、無解答率の低い学校ほど、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に、教員が積極的に参加できるようにしている。無解答率の高い学校では、「よくしている」との回答は47.4%に留まるのに対し、無解答率の低い学校で57.5%に達している(図表 1-165)。

図表 1-165 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
算数A 無解答率	低い(～上位1/8)	57.5%	39.8%	2.7%	.1%		100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	55.4%	41.4%	3.1%		.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	51.2%	45.3%	3.4%	.1%	.0%	100.0%
	高い(7/8～)	47.4%	48.4%	4.1%		.1%	100.0%
全体		53.1%	43.5%	3.2%	.0%	.1%	100.0%

1-4-4 学校別無解答率の分析（小学校算数 B）

(1) 指導方法

指導方法等についてみると、図表 1-166 から図表 1-177 に示す 12 種の取組について、無解答率の低い学校ほど「よく行った」という回答の割合が高い。

算数 A と異なる取組としては、「学級やグループで話し合う活動」「本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導」「資料を使って発表ができるよう指導」「総合学習で課題の設定から始まる探求の過程を意識した指導」の 4 種が挙げられる（図表 1-173、図表 1-174、図表 1-175、図表 1-177）。算数 A に比べ、児童が調べる、考える、探求するといった点を重視した取組が多いのが算数 B における傾向の特徴といえる。

図表 1-166 授業の冒頭における目標の提示

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解 答率	低い（～上位1/8）	68.6%	28.8%	2.4%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	62.4%	34.9%	2.6%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	54.0%	41.6%	4.3%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	46.9%	47.3%	5.6%		.1%	100.0%
全体		58.1%	38.2%	3.6%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-167 授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解 答率	低い（～上位1/8）	48.6%	46.1%	5.1%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	44.3%	49.7%	5.9%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	37.2%	53.6%	9.2%		.1%	100.0%
	高い（7/8～）	30.7%	57.0%	12.1%	.1%	.1%	100.0%
全体		40.5%	51.6%	7.8%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-168 考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解 答率	低い（～上位1/8）	43.2%	52.8%	3.9%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	37.4%	59.1%	3.3%	.0%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	30.9%	63.7%	5.3%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	26.9%	64.6%	8.3%	.1%	.1%	100.0%
全体		34.4%	60.7%	4.7%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-169 児童の発言や活動の時間の確保

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	52.7%	45.2%	1.9%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	48.0%	50.3%	1.6%	.0%	.0%
	やや高い(1/2～7/8)	40.4%	56.6%	2.9%		.1%
	高い(7/8～)	34.2%	60.5%	5.2%		.1%
全体		44.0%	53.3%	2.6%	.0%	.1%

図表 1-170 学習規律の維持の徹底

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	69.4%	28.8%	1.7%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	66.4%	32.2%	1.3%	.0%	.0%
	やや高い(1/2～7/8)	58.8%	38.3%	2.9%		.1%
	高い(7/8～)	50.2%	44.5%	5.1%	.1%	.1%
全体		61.9%	35.6%	2.4%	.0%	.1%

図表 1-171 学習方法に関する指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	64.6%	33.9%	1.4%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	59.6%	38.8%	1.6%		.0%
	やや高い(1/2～7/8)	51.5%	46.1%	2.3%		.1%
	高い(7/8～)	42.9%	53.1%	3.8%	.1%	.2%
全体		55.1%	42.7%	2.1%	.0%	.1%

図表 1-172 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	43.7%	50.4%	5.8%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	39.9%	52.9%	7.2%	.0%	.0%
	やや高い(1/2～7/8)	35.6%	54.8%	9.5%	.1%	.1%
	高い(7/8～)	30.0%	57.8%	12.0%		.1%
全体		37.5%	53.9%	8.5%	.0%	.1%

図表 1-173 学級やグループで話し合う活動

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	57.4%	40.2%	2.2%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	53.5%	44.2%	2.2%	.0%	.0%
	やや高い(1/2～7/8)	47.3%	48.8%	3.8%		.1%
	高い(7/8～)	39.4%	54.1%	6.4%		.1%
全体		49.9%	46.7%	3.4%	.0%	.1%

図表 1-174 本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	31.9%	61.2%	6.7%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	31.0%	61.4%	7.5%		.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	28.1%	63.0%	8.7%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	21.6%	66.9%	11.3%		.1%	100.0%
全体		28.9%	62.7%	8.3%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-175 資料を使って発表ができるよう指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	28.1%	61.7%	10.1%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	25.8%	63.0%	11.1%	.0%	.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	22.0%	63.8%	14.0%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	16.8%	64.0%	19.0%	.1%	.1%	100.0%
全体		23.5%	63.3%	13.0%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-176 児童が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	37.3%	57.1%	5.4%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	30.2%	63.0%	6.7%	.0%	.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	24.9%	64.5%	10.5%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	20.3%	66.4%	13.1%	.1%	.1%	100.0%
全体		27.9%	63.3%	8.8%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-177 総合学習で課題の設定から始まる探求の過程を意識した指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	31.2%	52.0%	16.4%		.4%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	25.8%	56.7%	17.2%	.1%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	22.9%	56.2%	20.6%	.2%	.2%	100.0%
	高い(7/8～)	17.0%	56.4%	26.3%	.3%	.1%	100.0%
全体		24.3%	55.9%	19.5%	.1%	.2%	100.0%

(2) 指導内容

算数 A と同様に無解答率の低い学校ほど「補充的な学習の指導」を積極的に行っている場合が多く、無解答率が高い学校では「よく行った」との回答が 24.7%に留まるのに対し、無解答率が低い学校では 35.3%が「よく行った」と回答している（図表 1-178）。

図表 1-178 補足的な学習の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	35.3%	52.8%	10.2%	1.6%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	30.6%	56.9%	11.1%	1.3%	.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	27.0%	58.2%	13.2%	1.5%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	24.7%	59.6%	13.6%	1.9%	.1%	100.0%
全体		29.1%	57.2%	12.1%	1.5%	.1%	100.0%

(3) 家庭学習

家庭学習については4種の取組(図表 1-179 から図表 1-182)について、無解答率が低い学校と高い学校の間で「よく行った」という回答の割合に10ポイント以上の差がみられた。この4種の取組は、算数Aと同じ項目である(図表 1-158 から図表 1-161)。

このうち最も差が大きかったのは、算数Aと同様に「家庭学習の課題について評価・指導した」(図表 1-181)であり、無解答率が高い学校に比べ、低い学校では「よく行った」の割合が14.8ポイント高かった。家庭学習については、概ね算数Aと算数Bで同様の傾向にあったといえる。

図表 1-179 保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	60.3%	36.3%	3.3%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	54.1%	41.9%	3.9%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	50.6%	44.8%	4.5%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	48.3%	46.6%	4.9%	.1%	.1%	100.0%
全体		52.8%	42.9%	4.2%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-180 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

							合計
		当てはまる	どちらかといえば、当てはまる	どちらかといえば、当てはまらない	当てはまらない	その他・無回答	
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	47.4%	42.5%	9.4%	.6%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	42.5%	45.6%	10.9%	.9%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	36.4%	49.0%	13.7%	.9%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	36.9%	46.4%	15.4%	1.1%	.1%	100.0%
全体		40.1%	46.6%	12.3%	.9%	.1%	100.0%

図表 1-181 家庭学習の課題について評価・指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
算数B 無解答率	低い(～上位1/8)	66.3%	31.1%	2.2%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	61.2%	36.1%	2.5%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	56.6%	39.6%	3.5%	.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	51.5%	44.0%	4.3%	.1%	.1%	100.0%
全体		58.9%	37.8%	3.1%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-182 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国語・算数共通質問）

		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	合計
算数B 無解 答率	低い（～上位1/8）	37.8%	54.4%	7.2%	.2%	.3%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	32.7%	58.8%	8.3%	.1%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	28.6%	60.5%	10.4%	.2%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	27.4%	58.9%	13.2%	.2%	.3%	100.0%
全体		31.2%	58.9%	9.6%	.2%	.2%	100.0%

(4) 地域の人材・施設の活用

地域の人材・施設の活用に関しては無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よく行った」と回答した割合に10ポイント以上の差は見られなかった。

(5) 教職員の取組（研修除く）

教職員の取組については、「学習指導・学習評価の計画の作成にあたり教職員同士が協力し合っている」（図表 1-183）、「学校の教育目標やその達成に向けた方策について全教職員の間で共有し、取組にあたっている」（図表 1-185）、「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している」（図表 1-186）の3項目について、無解答率の低い学校ほど「よくしている」と回答している割合が高い点は、算数Aと同様の傾向である。

また、算数Aにみられなかった傾向として、「言語活動に重点を置いた指導計画を作成している」についても無解答率の低い学校ほど「よくしている」の回答割合が高い（図表 1-184）。算数Aと異なり、知識・技能の活用等が求められる算数Bの解答にあたっては、言語能力に関する指導が一定の影響を及ぼしている可能性がある。

図表 1-183 学習指導・学習評価の計画の作成にあたり教職員同士が協力し合っている

		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	合計
算数B 無解 答率	低い（～上位1/8）	49.9%	47.4%	2.7%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	43.4%	52.8%	3.7%		.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	40.0%	55.0%	4.9%		.1%	100.0%
	高い（7/8～）	37.3%	56.8%	5.8%	.1%		100.0%
全体		42.2%	53.4%	4.3%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-184 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している

		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	合計
算数B 無解 答率	低い（～上位1/8）	35.7%	55.5%	8.6%	.3%		100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	31.4%	58.2%	10.0%	.3%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	27.7%	57.8%	13.9%	.5%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	22.9%	61.6%	14.8%	.7%		100.0%
全体		29.5%	58.2%	11.9%	.4%	.0%	100.0%

図表 1-185 学校の教育目標やその達成に向けた方策について全教職員の間で共有し、
取組にあっている

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答
算数B 無解 答率	低い（～上位1/8）	67.9%	31.4%	.7%		100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	61.6%	37.4%	.9%		100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	57.2%	41.5%	1.1%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	53.5%	44.2%	2.0%		100.0%
全体		59.7%	39.0%	1.1%	.0%	100.0%

図表 1-186 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答
算数B 無解 答率	低い（～上位1/8）	63.4%	35.5%	1.0%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	55.1%	42.3%	2.5%		100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	50.5%	46.3%	2.9%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	49.7%	46.5%	3.6%		100.0%
全体		53.7%	43.5%	2.6%	.0%	100.0%

(6) 教員研修

教育研修に関しては、算数 A と同様に無解答率の低い学校ほど、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に、教員が積極的に参加できるようにしている。無解答率の高い学校では、「よくしている」との回答は 47.2% に留まるのに対し、無解答率の低い学校で 59.0% に達している（図表 1-187）。

また、算数 A にみられなかったものとして、「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」という項目があり、この取組についても無解答率の低い学校ほど「よくしている」という回答の割合が高い（図表 1-188）。

図表 1-187 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答
算数B 無解 答率	低い（～上位1/8）	59.0%	38.3%	2.6%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	55.9%	41.1%	2.9%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	50.3%	46.2%	3.4%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	47.2%	48.2%	4.5%		100.0%
全体		53.1%	43.5%	3.2%	.0%	100.0%

図表 1-188 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている

		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	合計
算数B 無解 答率	低い(～上位1/8)	39.0%	57.2%	3.7%	.1%		100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	33.9%	61.5%	4.6%		.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	29.8%	63.7%	6.3%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	27.2%	64.6%	8.1%		.1%	100.0%
全体		32.2%	62.2%	5.6%	.0%	.1%	100.0%

1-4-5 学校別無解答率の分析(中学校国語A)

(1) 指導方法

指導方法等についてみると、図表 1-189 から図表 1-201 に示す 13 種の取組について、無解答率の低い学校は、無解答率の高い学校に比べ 10 ポイント以上「よく行った」という回答の割合が高い。その中でも「学習規律の維持の徹底」は 35.0 ポイント(図表 1-194)、「学習方法に関する指導」は 30.5 ポイント(図表 1-195)の差があり、無解答率の低い学校と高い学校で、特に回答傾向が大きく異なった。

ここで取り上げた取組をみると、主に学習の基本的な姿勢に関する指導(「生徒の発言や活動の時間の確保」—図表 1-192, 「学習規律の維持の徹底」—図表 1-194, 「学習方法に関する指導」—図表 1-195), 及び自分で調べたり考えたりする取組(「考えを引き出したたり思考を深めたりするような発問・指導」—図表 1-191, 「学級やグループで話し合う活動」—図表 1-197, 「資料を使った発表の指導」—図表 1-199, 「生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導」—図表 1-200, 「課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導」—図表 1-201)のそれぞれについて、無解答率が低い学校ほど、「よく行った」と回答している傾向が強い。

図表 1-189 授業の冒頭における目標の提示

		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	合計
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	50.4%	43.1%	6.2%	.3%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	43.4%	48.6%	7.7%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	41.0%	50.6%	8.1%	.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	35.2%	54.0%	10.4%	.4%		100.0%
全体		42.4%	49.4%	8.0%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-190 授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	35.2%	56.2%	8.3%	.2%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	26.1%	62.0%	11.4%	.3%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	23.4%	63.6%	12.8%	.1%	.1%
	高い(7/8～)	19.4%	63.0%	17.4%	.2%	.1%
全体		25.4%	62.0%	12.3%	.2%	.1%

図表 1-191 考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	39.1%	57.7%	3.1%	.0%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	22.3%	70.5%	7.0%	.0%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	19.4%	71.0%	9.4%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	14.1%	70.4%	15.4%	.1%	.1%
全体		22.3%	69.1%	8.5%	.0%	.1%

図表 1-192 生徒の発言や活動の時間の確保

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	42.7%	53.4%	3.8%	.0%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	30.1%	64.1%	5.8%	.0%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	25.2%	66.1%	8.7%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	18.4%	69.2%	12.2%	.1%	.1%
全体		28.4%	64.1%	7.4%	.0%	.1%

図表 1-193 生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	44.8%	50.8%	4.1%	.2%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	35.8%	58.5%	5.6%	.0%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	33.6%	61.3%	4.9%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	26.8%	63.7%	9.3%	.2%	.1%
全体		35.0%	59.2%	5.6%	.1%	.1%

図表 1-194 学習規律の維持の徹底

						合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	79.1%	19.9%	.9%	.0%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	69.5%	29.2%	1.2%	.0%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	58.0%	39.4%	2.6%	.0%	.1%
	高い(7/8～)	44.1%	50.2%	5.5%	.1%	.1%
全体		63.2%	34.5%	2.2%	.0%	.1%

図表 1-195 学習方法に関する指導

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	65.7%	32.8%	1.2%	.1%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	50.2%	47.8%	1.9%		.1%
	やや高い(1/2～7/8)	44.2%	53.2%	2.5%		.1%
	高い(7/8～)	35.2%	59.7%	5.1%		
全体		48.0%	49.4%	2.4%	.0%	.1%

図表 1-196 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題・テーマの設定

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	37.5%	49.7%	12.6%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	25.2%	58.0%	16.5%	.1%	.2%
	やや高い(1/2～7/8)	21.7%	57.3%	20.6%	.2%	.1%
	高い(7/8～)	15.0%	57.2%	27.6%	.2%	
全体		24.2%	56.6%	19.0%	.2%	.1%

図表 1-197 学級やグループで話し合う活動

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	43.5%	49.8%	6.6%		.1%
	やや低い(1/8～1/2)	32.4%	57.9%	9.6%	.1%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	26.9%	58.9%	14.1%		.1%
	高い(7/8～)	16.8%	60.3%	22.8%	.1%	
全体		29.8%	57.5%	12.6%	.0%	.1%

図表 1-198 本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	28.6%	56.0%	15.0%	.2%	.2%
	やや低い(1/8～1/2)	15.6%	61.3%	22.8%	.3%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	12.6%	57.7%	29.3%	.3%	.1%
	高い(7/8～)	9.7%	54.3%	35.2%	.8%	
全体		15.3%	58.4%	25.8%	.4%	.1%

図表 1-199 資料を使った発表の指導

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	30.4%	55.8%	13.5%	.2%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	15.2%	63.8%	20.6%	.2%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	11.8%	61.5%	26.5%	.2%	.1%
	高い(7/8～)	9.8%	53.8%	35.5%	.9%	
全体		15.1%	60.7%	23.8%	.3%	.1%

図表 1-200 生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	37.3%	55.9%	6.7%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	19.7%	67.9%	12.3%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	15.6%	68.5%	15.8%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	11.3%	63.2%	25.3%	.2%		100.0%
全体		19.3%	66.0%	14.5%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-201 総合学習において課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	42.8%	44.0%	12.6%	.5%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	28.7%	53.2%	17.3%	.6%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	23.5%	53.6%	22.4%	.3%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	16.8%	53.9%	28.5%	.7%		100.0%
全体		27.0%	52.3%	20.0%	.5%	.2%	100.0%

(2) 指導内容

指導内容については、国語 A では、「読む」「書く」「話す」「聞く」といった言語活動に関連する取組（図表 1-205 から図表 1-207）のみならず、「コンピュータ等の基本的な操作を身につける指導」（図表 1-202）や「情報通信技術を活用した協働学習や課題発見・解決型の指導」（図表 1-203）といった情報機器や情報技術を活用した取組、また国語科教育の「発展的な学習の指導」（図表 1-204）や「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」（図表 1-208）についても、無解答率の低い学校ほど「よく行った」と回答した割合が高い。

図表 1-202 コンピュータ等の基本的な操作を身につける指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	48.9%	40.9%	8.3%	1.7%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	38.8%	54.5%	6.3%	.3%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	36.6%	54.8%	7.8%	.8%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	30.9%	56.8%	11.0%	1.2%	.1%	100.0%
全体		38.2%	53.2%	7.7%	.8%	.1%	100.0%

図表 1-203 情報通信技術を活用した協働学習や課題発見・解決型の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	15.3%	37.5%	39.8%	7.3%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	7.5%	39.0%	46.6%	6.8%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	6.5%	35.6%	50.4%	7.4%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	4.1%	32.5%	55.2%	8.0%	.1%	100.0%
全体		7.7%	36.7%	48.2%	7.2%	.1%	100.0%

図表 1-204 国語科における発展的な学習の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	22.8%	48.0%	26.5%	2.7%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	7.4%	49.6%	38.8%	4.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	5.6%	46.1%	43.9%	4.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	5.9%	38.8%	49.9%	5.4%		100.0%
全体		8.5%	46.7%	40.6%	4.1%	.1%	100.0%

図表 1-205 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	29.8%	52.0%	17.5%	.5%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	19.3%	62.0%	18.2%	.3%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	16.0%	61.5%	21.7%	.5%	.2%	100.0%
	高い(7/8～)	12.3%	62.1%	24.0%	1.4%	.1%	100.0%
全体		18.5%	60.6%	20.2%	.6%	.2%	100.0%

図表 1-206 書く習慣を付ける授業

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	45.8%	48.5%	5.4%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	34.6%	58.3%	6.9%	.0%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	32.6%	60.5%	6.7%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	29.0%	60.0%	10.9%	.1%	.1%	100.0%
全体		34.5%	58.1%	7.2%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-207 様々な文章を読む習慣を付ける授業

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	36.5%	51.1%	12.2%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	24.5%	61.1%	14.2%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	21.3%	62.4%	15.9%	.3%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	19.4%	60.7%	18.9%	1.0%		100.0%
全体		24.2%	60.3%	15.2%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-208 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	65.6%	31.4%	2.7%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	58.3%	39.7%	1.8%		.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	57.7%	40.4%	1.7%		.1%	100.0%
	高い(7/8～)	54.6%	43.5%	1.7%	.1%		100.0%
全体		58.5%	39.4%	1.9%	.0%	.1%	100.0%

(3) 家庭学習

家庭学習のうち国語科単独、国語・数学共通質問それぞれについてみた。家庭学習の課題に関しては、大部分の学校が与えているものの、それでも無解答率が低い学校ほど、より積極的に取り組んでいるという傾向がみられる(図表 1-209 から図表 1-213)。

特に「学習方法等を具体例を挙げながら教えた」という項目については、無解答率の低い学校では「あまり行っていない」だけでなく「どちらかといえば、行った」と回答している学校も少ない(図表 1-213)。無解答率を下げる上では、家庭での学習方法等の具体的な指導に徹底して取り組むことが重要といえる。

図表 1-209 家庭学習の課題を与えた

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	57.6%	32.6%	9.4%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	47.2%	43.3%	9.1%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	40.5%	47.2%	11.9%	.3%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	34.8%	50.0%	14.8%	.4%		100.0%
全体		44.4%	44.2%	10.9%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-210 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	41.1%	40.9%	15.4%	2.5%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	30.9%	47.9%	18.7%	2.3%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	27.1%	48.2%	22.1%	2.6%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	23.4%	51.4%	21.9%	3.3%		100.0%
全体		29.8%	47.6%	19.9%	2.5%	.1%	100.0%

図表 1-211 家庭学習の課題について評価・指導した

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	65.8%	31.5%	2.2%	.4%	.1%
	やや低い(1/8～1/2)	57.5%	39.6%	2.6%	.2%	.1%
	やや高い(1/2～7/8)	51.7%	43.3%	4.7%	.2%	.1%
	高い(7/8～)	46.8%	46.3%	6.4%	.5%	.1%
全体		55.0%	40.8%	3.8%	.3%	.1%

図表 1-212 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出した
(国語・数学共通質問)

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	23.2%	49.4%	25.8%	1.0%	.5%
	やや低い(1/8～1/2)	9.9%	51.0%	37.0%	1.5%	.5%
	やや高い(1/2～7/8)	8.6%	48.3%	41.3%	1.3%	.5%
	高い(7/8～)	6.9%	40.9%	49.3%	2.7%	.3%
全体		10.7%	48.6%	38.7%	1.5%	.5%

図表 1-213 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた(国語・数学共通質問)

						合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答
国語A 無解 答率	低い(～上位1/8)	39.7%	50.7%	8.9%	.3%	.4%
	やや低い(1/8～1/2)	26.8%	60.9%	11.6%	.2%	.5%
	やや高い(1/2～7/8)	22.4%	62.7%	14.0%	.4%	.5%
	高い(7/8～)	19.1%	62.5%	17.7%	.3%	.4%
全体		25.8%	60.5%	12.9%	.3%	.5%

(4) 地域の人材・施設の活用

地域の人材・施設の活用に関しては無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よく行った」と回答した割合に10ポイント以上の差はみられなかった。

(5) 教職員の取組(研修除く)

教職員の取組のうち研修を除いたものについてみると、図表 1-214 から図表 1-218 に示す5種の取組について、無解答率が低い学校ほど「よくしている」という回答の割合が高く、より積極的な取組を行っている。このうち「知識・技能の活用に重点を置いた指導計画」及び「言語活動に重点を置いた指導計画」については、「どちらかといえば、している」と回答している学校に注目すると無解答率の高低による差異は小さい(図表 1-215 および図表 1-216)。これに対し、「学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間での共有」

については、無解答率の高い学校でも「どちらかといえばしている」と回答している割合が高かった（図表 1-218）。このことから、「学校全体の学力傾向や課題を全教職員の間で共有」することについては、「よくしている」と回答できるまで徹底して取り組まなければ無解答率を下げるには至らないことが考えられる。

図表 1-214 学習指導・評価の計画の作成に、教職員同士が協力し合っている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	45.0%	49.3%	5.3%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	34.6%	59.7%	5.6%	.0%		100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	33.3%	60.9%	5.7%		.1%	100.0%
	高い（7/8～）	28.7%	63.9%	7.1%	.2%	.1%	100.0%
全体		34.7%	59.4%	5.8%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-215 知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	28.5%	59.1%	12.0%	.3%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	14.7%	67.9%	17.2%	.3%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	13.0%	69.6%	17.1%	.1%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	10.6%	68.8%	20.5%	.1%		100.0%
全体		15.3%	67.5%	16.9%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-216 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	34.1%	53.0%	12.4%	.4%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	22.3%	62.8%	14.7%	.3%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	20.8%	61.1%	17.9%	.1%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	15.5%	60.1%	24.0%	.3%	.1%	100.0%
全体		22.3%	60.6%	16.8%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-217 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し取組に当たっている

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	62.9%	35.8%	1.2%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	52.6%	45.2%	2.1%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	50.0%	48.0%	1.7%	.3%	100.0%
	高い（7/8～）	46.0%	51.7%	2.1%	.2%	100.0%
全体		52.1%	45.9%	1.8%	.3%	100.0%

図表 1-218 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	60.1%	38.4%	1.4%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	46.8%	49.4%	3.5%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	46.1%	50.7%	2.9%	.3%	100.0%
	高い（7/8～）	45.2%	51.8%	2.8%	.2%	100.0%
全体		48.0%	48.8%	2.9%	.2%	100.0%

(6) 教員研修

以下の3種の取組につき、無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よくしている」と回答した割合に10ポイント以上の差がみられた。「教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加」「教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組を行っている」（図表 1-219、図表 1-221）のような研修の参加に関する取組だけでなく、図表 1-220 に示されるような、研修成果の活用を積極的に行うことも重要と考えられる。

図表 1-219 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	48.0%	44.1%	7.8%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	37.2%	54.5%	7.9%	.2%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	34.4%	56.5%	8.9%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	32.3%	56.8%	10.7%	.1%	.1%	100.0%
全体		36.9%	54.3%	8.6%	.1%	.2%	100.0%

図表 1-220 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語A 無解 答率	低い（～上位1/8）	31.9%	58.8%	9.2%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	21.7%	67.9%	10.4%			100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	19.2%	68.2%	12.5%		.1%	100.0%
	高い（7/8～）	14.9%	68.9%	16.0%	.2%		100.0%
全体		21.2%	67.0%	11.8%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-221 教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語A 無解答率	低い(～上位1/8)	50.3%	42.7%	6.9%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	39.3%	51.9%	8.5%	.1%	.3%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	38.0%	53.0%	8.7%		.3%	100.0%
	高い(7/8～)	36.4%	53.0%	10.2%	.2%	.2%	100.0%
全体		39.8%	51.3%	8.6%	.1%	.3%	100.0%

1-4-6 学校別無解答率の分析(中学校国語B)

(1) 指導方法

指導方法・学習規律の取組について、図表 1-222 から図表 1-234 に示す 13 項目いずれの取組とも、無解答率の低い学校ほど、設定した選択肢のうち最も積極的な取組を示す選択肢「よく行った」を回答しており、いずれも無解答率が「低い」学校と「高い」学校の間で 10 ポイント以上の差となっている。

国語 A と概ね同様の傾向となっており、取組をみていくと、主に学習の基本的な姿勢に関する指導(「生徒の発言や活動の時間の確保」—図表 1-225, 「学習規律の維持の徹底」—図表 1-227, 「学習方法に関する指導」—図表 1-228), 及び自分で調べたり考えたりする取組(「考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導」—図表 1-224, 「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題・テーマの設定」—図表 1-229, 「学級やグループで話し合う活動」—図表 1-230, 「本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導」—図表 1-231, 「資料を使った発表の指導」—図表 1-232, 「生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導」—図表 1-233, 「課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導」—図表 1-234) のそれぞれについて無解答率が低い学校ほど「よく行った」と回答した割合が高い。

図表 1-222 授業の冒頭における目標の提示

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	48.5%	45.0%	5.9%	.3%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	44.8%	47.6%	7.4%	.2%		100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	41.3%	50.4%	8.1%	.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	32.1%	56.1%	11.4%	.4%		100.0%
全体		42.4%	49.4%	8.0%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-223 授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	33.5%	58.4%	7.8%	.1%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	26.4%	62.2%	11.0%	.3%	.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	24.1%	62.2%	13.5%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	18.1%	64.6%	17.1%	.2%		100.0%
全体		25.4%	62.0%	12.3%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-224 考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	37.5%	58.3%	4.0%		.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	22.9%	70.5%	6.4%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	19.6%	70.7%	9.6%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	13.2%	70.9%	15.8%			100.0%
全体		22.3%	69.1%	8.5%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-225 生徒の発言や活動の時間の確保

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	42.6%	54.3%	3.0%		.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	30.1%	64.3%	5.6%	.0%		100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	25.7%	65.5%	8.6%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	16.8%	69.3%	13.9%			100.0%
全体		28.4%	64.1%	7.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-226 生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	44.6%	50.4%	4.7%	.1%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	34.8%	60.2%	5.0%	.0%		100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	34.0%	59.8%	6.0%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	28.7%	63.7%	7.6%			100.0%
全体		35.0%	59.2%	5.6%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-227 学習規律の維持の徹底

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い(～上位1/8)	78.3%	20.9%	.6%		.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	70.1%	28.8%	1.1%		.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	58.7%	38.4%	2.7%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	41.0%	53.1%	6.0%			100.0%
全体		63.2%	34.5%	2.2%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-228 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い（～上位1/8）	64.3%	33.9%	1.4%	.1%	.2%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	50.9%	47.2%	1.8%		.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	44.5%	52.7%	2.7%		.1%	100.0%
	高い（7/8～）	33.6%	61.8%	4.6%			100.0%
全体		48.0%	49.4%	2.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-229 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題・テーマの設定

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い（～上位1/8）	37.8%	49.0%	12.9%		.2%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	25.9%	58.2%	15.7%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	20.9%	57.2%	21.6%	.2%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	15.1%	57.6%	27.0%	.3%		100.0%
全体		24.2%	56.6%	19.0%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-230 学級やグループで話し合う活動

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い（～上位1/8）	44.5%	48.3%	6.9%	.1%	.2%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	32.8%	58.3%	8.9%		.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	26.3%	59.0%	14.6%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	16.4%	60.3%	23.2%	.1%		100.0%
全体		29.8%	57.5%	12.6%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-231 本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い（～上位1/8）	28.1%	55.8%	15.7%	.1%	.3%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	15.9%	60.9%	23.0%	.2%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	12.6%	58.2%	28.6%	.5%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	9.2%	54.4%	35.7%	.6%		100.0%
全体		15.3%	58.4%	25.8%	.4%	.1%	100.0%

図表 1-232 資料を使った発表の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い（～上位1/8）	30.4%	55.6%	13.6%	.2%	.2%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	15.6%	64.1%	20.0%	.2%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	12.1%	60.8%	26.7%	.3%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	7.6%	55.3%	36.6%	.5%		100.0%
全体		15.1%	60.7%	23.8%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-233 児童が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	37.7%	54.9%	7.1%	.1%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	20.2%	68.4%	11.3%	.0%	.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	15.3%	67.4%	17.1%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	10.1%	65.8%	24.0%	.1%		100.0%
全体		19.3%	66.0%	14.5%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-234 総合学習において課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	43.9%	43.6%	12.0%	.3%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	28.5%	53.7%	17.1%	.5%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	23.1%	53.8%	22.3%	.7%	.2%	100.0%
	高い(7/8～)	17.5%	52.2%	30.1%	.3%		100.0%
全体		27.0%	52.3%	20.0%	.5%	.2%	100.0%

(2) 指導内容

指導内容については、国語 B では、「読む」「書く」「聞く」「話す」といった言語活動に関連する取組(図表 1-237 から図表 1-239)のみならず、「コンピュータ等の基本的な操作を身につける指導」(図表 1-235)や国語科教育の「発展的な学習の指導」(図表 1-236)や「漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業」(図表 1-240)のそれぞれについて、無解答率の低い学校ほど「よく行った」と回答した割合が高い。これらは国語 A と共通の傾向である。

図表 1-235 コンピュータ等の基本的な操作を身につける指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	46.7%	43.6%	8.2%	1.3%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	40.3%	52.7%	6.4%	.6%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	36.2%	55.2%	7.8%	.7%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	29.7%	58.2%	10.8%	1.2%	.1%	100.0%
全体		38.2%	53.2%	7.7%	.8%	.1%	100.0%

図表 1-236 国語科における発展的な学習の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	21.6%	47.4%	27.6%	3.2%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	7.7%	49.6%	38.9%	3.7%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	6.0%	45.5%	44.1%	4.4%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	5.0%	41.4%	48.0%	5.4%	.1%	100.0%
全体		8.5%	46.7%	40.6%	4.1%	.1%	100.0%

図表 1-237 目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	31.6%	50.9%	17.0%	.3%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	19.2%	63.1%	17.1%	.4%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	15.8%	61.2%	22.2%	.5%	.2%	100.0%
	高い(7/8～)	11.4%	60.9%	26.5%	1.2%		100.0%
全体		18.5%	60.6%	20.2%	.6%	.2%	100.0%

図表 1-238 書く習慣を付ける授業

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	47.5%	47.4%	4.9%		.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	35.7%	57.7%	6.4%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	31.5%	60.6%	7.7%	.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	27.0%	62.6%	10.2%	.1%	.1%	100.0%
全体		34.5%	58.1%	7.2%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-239 様々な文章を読む習慣を付ける授業

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	37.7%	50.3%	11.7%	.1%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	23.8%	61.8%	14.3%	.1%	.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	21.8%	61.5%	16.2%	.3%	.2%	100.0%
	高い(7/8～)	18.6%	62.2%	18.3%	.9%		100.0%
全体		24.2%	60.3%	15.2%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-240 漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い(～上位1/8)	63.6%	33.3%	2.7%	.2%		100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	59.4%	38.7%	1.8%		.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	57.4%	40.5%	1.9%		.2%	100.0%
	高い(7/8～)	54.3%	44.4%	1.2%	.1%		100.0%
全体		58.5%	39.4%	1.9%	.0%	.1%	100.0%

(3) 家庭学習

家庭学習のうち国語科単独、国語・数学共通質問それぞれについてみた。家庭学習の課題は大部分の学校が生徒に与えているものの、それでも無解答率が低い学校ほど、より積極的に取り組んでいるという傾向がみられるなど、国語Aと同様の傾向となっている(図表 1-241)。

また、「学習方法等を具体例を挙げながら教えた」という項目では、無解答率の低い学校

には「あまり行っていない」だけでなく「どちらかといえば、行った」と回答している割合も少ない（図表 1-245）。無解答率を下げる上で徹底して取り組むことが重要といえる。

図表 1-241 家庭学習の課題を与えた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い（～上位1/8）	53.5%	36.2%	9.7%	.3%	.2%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	46.1%	44.1%	9.6%	.2%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	41.8%	45.8%	11.9%	.3%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	38.4%	48.0%	13.1%	.4%		100.0%
全体		44.4%	44.2%	10.9%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-242 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い（～上位1/8）	37.7%	43.1%	16.7%	2.3%	.2%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	31.9%	46.9%	18.5%	2.7%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	27.1%	48.0%	22.0%	2.7%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	24.0%	52.8%	21.3%	2.0%		100.0%
全体		29.8%	47.6%	19.9%	2.5%	.1%	100.0%

図表 1-243 家庭学習の課題について評価・指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い（～上位1/8）	64.5%	32.7%	2.2%	.4%	.2%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	57.4%	39.6%	2.8%	.2%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	52.1%	42.6%	4.8%	.3%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	47.2%	47.0%	5.5%	.2%		100.0%
全体		55.0%	40.8%	3.8%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-244 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出した

（国語・数学共通質問）

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解答率	低い（～上位1/8）	22.3%	49.2%	26.6%	1.3%	.6%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	10.1%	52.0%	36.0%	1.3%	.6%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	8.6%	46.5%	42.8%	1.6%	.4%	100.0%
	高い（7/8～）	7.1%	43.8%	46.8%	2.0%	.3%	100.0%
全体		10.7%	48.6%	38.7%	1.5%	.5%	100.0%

図表 1-245 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国語・数学共通質問）

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	36.9%	52.5%	9.7%	.4%	.4%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	27.0%	60.4%	11.8%	.2%	.5%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	23.5%	62.0%	13.6%	.5%	.4%	100.0%
	高い（7/8～）	18.1%	64.3%	17.0%	.2%	.4%	100.0%
全体		25.8%	60.5%	12.9%	.3%	.5%	100.0%

(4) 地域の人材・施設の活用

地域の人材・施設の活用に関しては無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よく行った」の回答割合に10ポイント以上の差は見られなかった。

(5) 教職員の取組（研修除く）

教職員の取組のうち研修を除いたものについてみると、図表 1-246 から図表 1-250 に示す5種の取組について、無解答率が低い学校ほど「よくしている」という回答の割合が高く、より積極的な取組を行っている。これはいずれも国語 A（図表 1-214 から図表 1-218）と同じ項目である。

特に「学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し取組に当たっている」については、無解答率が高い学校では「よくしている」という回答の割合が43.6%であるのに対し、無解答率が低い学校では62.1%となっており、両者の差は18.5ポイントと大きい。

図表 1-246 学習指導・評価の計画の作成に、教職員同士が協力し合っている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	42.9%	50.9%	5.9%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	34.7%	60.2%	5.1%	.0%		100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	33.7%	60.2%	5.9%	.1%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	29.6%	62.9%	7.4%		.1%	100.0%
全体		34.7%	59.4%	5.8%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-247 知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	27.0%	59.7%	12.9%	.3%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	15.5%	68.3%	16.0%	.3%	.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	12.4%	69.3%	18.0%	.2%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	11.4%	68.1%	20.5%			100.0%
全体		15.3%	67.5%	16.9%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-248 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	33.8%	53.9%	11.8%	.3%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	23.3%	62.4%	13.9%	.3%		100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	19.8%	60.9%	19.0%	.1%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	15.5%	60.7%	23.7%	.1%		100.0%
全体		22.3%	60.6%	16.8%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-249 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し
取組に当たっている

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	62.1%	36.9%	.9%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	53.9%	44.0%	1.9%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	49.7%	48.0%	1.8%	.4%	100.0%
	高い（7/8～）	43.6%	53.9%	2.4%	.1%	100.0%
全体		52.1%	45.9%	1.8%	.3%	100.0%

図表 1-250 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	60.0%	38.2%	1.7%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	47.2%	49.7%	2.9%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	46.0%	50.4%	3.2%	.4%	100.0%
	高い（7/8～）	44.6%	52.1%	3.3%	.1%	100.0%
全体		48.0%	48.8%	2.9%	.2%	100.0%

(6) 教員研修

図表 1-251 から図表 1-254 に示すの 4 種の取組について、無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よくしている」回答した割合に 10 ポイント以上の差がみられた。このうち「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」については、国語 A においては、無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よくしている」という回答割合の差は 10 ポイント未満であり²、特に国語 B において相関関係がみられる取組といえる（図表 1-251）。

² 国語 A においては、無解答率の高い学校と低い学校との間で「よく行っている」の回答割合が 10 ポイント未満であったため該当図表は非掲載。なお、無解答率が高い学校において「よく行っている」は 34.6%、低い学校においては 42.8%であった。

図表 1-251 模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	44.3%	41.8%	12.0%	1.7%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	39.0%	47.0%	13.2%	.7%		100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	36.8%	48.6%	14.2%	.3%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	33.8%	50.0%	15.7%	.5%		100.0%
全体		38.2%	47.3%	13.7%	.7%	.0%	100.0%

図表 1-252 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	46.7%	45.4%	7.7%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	37.4%	54.2%	8.1%	.1%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	34.6%	56.7%	8.4%	.1%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	32.5%	56.0%	11.3%		.2%	100.0%
全体		36.9%	54.3%	8.6%	.1%	.2%	100.0%

図表 1-253 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	31.7%	59.9%	8.3%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	21.5%	68.5%	10.0%			100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	19.2%	67.6%	13.1%	.0%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	15.9%	67.7%	16.3%	.1%		100.0%
全体		21.2%	67.0%	11.8%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-254 教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
国語B 無解 答率	低い（～上位1/8）	51.2%	42.2%	6.5%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	39.3%	52.5%	7.9%	.1%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	37.8%	52.7%	9.0%	.1%	.4%	100.0%
	高い（7/8～）	36.2%	52.4%	11.3%		.1%	100.0%
全体		39.8%	51.3%	8.6%	.1%	.3%	100.0%

1-4-7 学校別無解答率の分析（中学校数学 A）

(1) 指導方法

図表 1-255 から図表 1-267 に示す 13 項目いずれの取組とも、無解答率の低い学校ほど、設定した選択肢のうち最も積極的な取組を示す選択肢「よく行った」を回答しており、いずれも無解答率が「低い」学校と「高い」学校の間で 10 ポイント以上の差となっている。

国語 B と同様の傾向となっており、取組をみていくと、主に学習の基本的な姿勢に関する指導（「生徒の発言や活動の時間の確保」－図表 1-258, 「学習規律の維持の徹底」－図表 1-260, 「学習方法に関する指導」－図表 1-261), 及び自分で調べたり考えたりする取組（「考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導」－図表 1-257, 「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題・テーマの設定」－図表 1-262, 「学級やグループで話し合う活動」－図表 1-263, 「本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導」－図表 1-264, 「資料を使った発表の指導」－図表 1-265, 「生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導」－図表 1-266, 「課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導」－図表 1-267) のそれぞれについて、無解答率が低い学校ほど「よく行った」と回答している割合が高い。

図表 1-255 授業の冒頭における目標の提示

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	49.9%	43.3%	6.3%	.4%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	43.4%	48.6%	7.8%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	41.5%	50.1%	8.2%	.2%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	34.4%	55.5%	9.7%	.4%		100.0%
全体		42.4%	49.4%	8.0%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-256 授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	33.5%	57.8%	8.3%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	26.2%	61.6%	11.8%	.3%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	24.1%	62.9%	12.8%	.2%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	19.0%	64.7%	16.2%	.1%		100.0%
全体		25.4%	62.0%	12.3%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-257 考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	39.2%	57.2%	3.5%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	22.8%	70.3%	6.6%	.0%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	19.0%	71.3%	9.7%		.0%	100.0%
	高い（7/8～）	13.8%	70.7%	15.4%	.1%		100.0%
全体		22.3%	69.1%	8.5%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-258 生徒の発言や活動の時間の確保

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	43.7%	52.7%	3.5%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	29.8%	63.8%	6.3%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	25.4%	66.4%	8.1%		.0%	100.0%
	高い（7/8～）	17.5%	69.8%	12.5%	.1%	.1%	100.0%
全体		28.4%	64.1%	7.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-259 生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	45.1%	50.4%	4.2%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	35.8%	58.6%	5.4%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	32.9%	61.5%	5.5%	.1%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	28.3%	63.3%	8.2%	.1%		100.0%
全体		35.0%	59.2%	5.6%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-260 学習規律の維持の徹底

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	79.6%	19.4%	0.8%		.2%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	70.3%	28.5%	1.1%		.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	57.8%	39.6%	2.6%		.0%	100.0%
	高い（7/8～）	41.9%	52.0%	6.1%	.1%		100.0%
全体		63.2%	34.5%	2.2%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-261 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	67.8%	30.5%	1.4%	.1%	.2%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	50.7%	47.5%	1.7%		.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	44.0%	53.3%	2.7%		.0%	100.0%
	高い（7/8～）	32.5%	62.5%	4.9%			100.0%
全体		48.0%	49.4%	2.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-262 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題・テーマの設定

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	39.6%	48.4%	11.8%		.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	25.2%	57.9%	16.5%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	20.8%	57.9%	21.2%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	15.8%	57.1%	26.8%	.3%		100.0%
全体		24.2%	56.6%	19.0%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-263 学級やグループで話し合う活動

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	44.7%	47.8%	7.2%	.1%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	31.9%	58.8%	9.1%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	27.0%	58.3%	14.7%		.0%	100.0%
	高い(7/8～)	16.5%	61.4%	22.1%			100.0%
全体		29.8%	57.5%	12.6%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-264 本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	29.9%	54.6%	14.9%	.3%	.3%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	15.1%	61.8%	22.7%	.3%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	13.0%	57.2%	29.3%	.4%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	8.2%	55.9%	35.4%	.5%		100.0%
全体		15.3%	58.4%	25.8%	.4%	.1%	100.0%

図表 1-265 資料を使った発表の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	31.6%	54.8%	13.2%	.2%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	15.2%	63.9%	20.5%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	12.0%	60.9%	26.8%	.3%	.0%	100.0%
	高い(7/8～)	7.8%	56.3%	35.3%	.6%		100.0%
全体		15.1%	60.7%	23.8%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-266 児童が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	38.8%	53.6%	7.3%	.1%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	19.3%	68.3%	12.2%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	15.8%	67.5%	16.5%	.1%	.0%	100.0%
	高い(7/8～)	10.2%	66.9%	22.8%	.1%		100.0%
全体		19.3%	66.0%	14.5%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-267 総合学習において課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	44.7%	43.1%	11.6%	.3%	.3%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	28.4%	53.0%	18.0%	.4%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	23.0%	54.2%	22.2%	.6%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	17.2%	53.9%	28.0%	.7%	.1%	100.0%
全体		27.0%	52.3%	20.0%	.5%	.2%	100.0%

(2) 指導内容

指導内容では図表 1-268 から図表 1-271 に示す 4 種の取組について、無解答率の低い学校ほど、設定した選択肢のうち最も積極的な取組を示す選択肢「よく行った」を回答している。数学科に関する設問については、「補充的な学習の指導」(図表 1-270)、「発展的な学習の指導」(図表 1-271) いずれについても、無解答率の低い学校ほど選択肢「よく行った」と回答しており、特に「補充的な学習の指導」は、国語 A 及び国語 B の無解答率と、国語科における補充的な指導には関連がみられなかったのに対して、数学 A では強い相関関係がみられるのが特徴である。

図表 1-268 コンピュータ等の基本的な操作を身につける指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	48.5%	41.3%	8.5%	1.5%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	38.3%	54.2%	6.7%	.5%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	37.5%	54.5%	7.4%	.6%	.0%	100.0%
	高い(7/8～)	29.9%	58.1%	10.5%	1.4%	.1%	100.0%
全体		38.2%	53.2%	7.7%	.8%	.1%	100.0%

図表 1-269 情報通信技術を活用した協働学習や課題発見・解決型の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	14.8%	40.0%	38.2%	7.0%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	7.6%	38.0%	47.4%	6.8%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	6.3%	36.1%	50.1%	7.4%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	4.8%	31.5%	55.4%	8.1%	.1%	100.0%
全体		7.7%	36.7%	48.2%	7.2%	.1%	100.0%

図表 1-270 補充的な学習の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	34.3%	51.5%	12.3%	1.8%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	23.7%	61.2%	13.6%	1.3%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	22.7%	62.3%	13.7%	1.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	21.3%	63.7%	13.9%	1.1%	.1%	100.0%
全体		24.3%	60.7%	13.5%	1.3%	.1%	100.0%

図表 1-271 数学科における発展的な学習の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	28.4%	48.7%	21.1%	1.6%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	9.9%	53.4%	34.3%	2.3%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	8.1%	47.4%	41.2%	3.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	6.7%	41.0%	48.7%	3.6%	.1%	100.0%
全体		11.1%	49.0%	37.0%	2.7%	.1%	100.0%

(3) 家庭学習

家庭学習のうち数学科単独、国語・数学共通質問それぞれについてみたところ、図表 1-272 から図表 1-277 に示す 6 種の取組について、無解答率の低い学校ほど、設定した選択肢のうち最も積極的な取組を示す選択肢「よく行った」と回答している。傾向は国語と概ね同様であるが、「保護者に対し、生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」（図表 1-273）という項目については、国語 A 及び国語 B では、無解答率の低い学校と高い学校の間で「よく行った」と回答した割合の差は 10 ポイント未満と小さい項目であったが、数学においては無解答率の改善にとって影響がある取組と考えられる。

図表 1-272 家庭学習の課題を与えた

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	67.6%	27.3%	5.0%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	52.8%	40.4%	6.6%	.1%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	45.3%	46.6%	7.8%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	36.2%	53.5%	9.9%	.3%	.1%	100.0%
全体		49.8%	42.7%	7.3%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-273 保護者に対し、生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	33.0%	42.2%	21.9%	2.8%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	23.0%	50.0%	23.3%	3.5%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	20.7%	51.1%	25.0%	3.0%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	21.7%	51.5%	23.4%	3.4%		100.0%
全体		23.2%	49.6%	23.8%	3.2%	.1%	100.0%

図表 1-274 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	44.4%	38.2%	14.8%	2.6%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	31.5%	47.7%	18.5%	2.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	27.9%	48.9%	20.7%	2.4%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	25.5%	49.0%	22.5%	3.1%		100.0%
全体		31.0%	47.1%	19.3%	2.4%	.1%	100.0%

図表 1-275 家庭学習の課題について評価・指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い(～上位1/8)	68.5%	27.8%	3.5%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	56.3%	40.2%	3.2%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	51.0%	43.3%	5.3%	.3%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	43.5%	48.6%	7.5%	.4%		100.0%
全体		54.2%	40.8%	4.6%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-276 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出した
(国語・数学共通質問)

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い(～上位1/8)	23.4%	49.3%	26.1%	.7%	.5%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	9.7%	51.9%	36.4%	1.4%	.6%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	8.6%	47.8%	41.5%	1.6%	.5%	100.0%
	高い(7/8～)	7.2%	40.1%	50.2%	2.2%	.3%	100.0%
全体		10.7%	48.6%	38.7%	1.5%	.5%	100.0%

図表 1-277 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた(国語・数学共通質問)

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い(～上位1/8)	38.4%	52.0%	8.8%	.3%	.5%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	26.1%	60.7%	12.4%	.3%	.5%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	23.9%	61.8%	13.6%	.3%	.4%	100.0%
	高い(7/8～)	18.4%	64.4%	16.4%	.4%	.4%	100.0%
全体		25.8%	60.5%	12.9%	.3%	.5%	100.0%

(4) 地域の人材・施設の活用

地域の人材・施設の活用に関しては無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よく行った」と回答した割合に10ポイント以上の差は見られなかった。

(5) 教職員の取組(研修除く)

教職員の取組のうち研修を除いたものについてみると、国語と同じように図表 1-278 から図表 1-282 に示す5種の取組とも無解答率が低い学校ほど、より積極的な取組を行っている。このうち「言語活動に重点を置いた指導計画を作成している」(図表 1-280)については、その内容から主に国語科に関連があるものと考えられるが、数学科においても取組状況と無解答率の間に相関関係がみられる。

図表 1-278 学習指導・評価の計画の作成に、教職員同士が協力し合っている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	45.6%	50.1%	3.9%	.3%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	34.2%	60.0%	5.8%		.0%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	32.9%	61.2%	5.9%		.1%	100.0%
	高い（7/8～）	30.7%	61.4%	7.6%	.2%	.1%	100.0%
全体		34.7%	59.4%	5.8%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-279 知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	28.2%	59.7%	11.7%	.3%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	14.5%	68.5%	16.6%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	13.1%	68.4%	18.1%	.2%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	11.0%	69.7%	19.2%	.1%		100.0%
全体		15.3%	67.5%	16.9%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-280 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	33.1%	54.5%	11.8%	.5%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	22.3%	62.4%	15.0%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	20.8%	61.2%	17.7%	.1%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	16.3%	59.2%	24.0%	.3%	.1%	100.0%
全体		22.3%	60.6%	16.8%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-281 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し
取組に当たっている

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	61.2%	36.9%	1.5%	.3%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	52.9%	45.0%	1.8%	.3%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	49.7%	48.5%	1.6%	.2%	100.0%
	高い（7/8～）	47.6%	49.4%	2.6%	.4%	100.0%
全体		52.1%	45.9%	1.8%	.3%	100.0%

図表 1-282 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	その他・無回答	
数学A 無解 答率	低い（～上位1/8）	59.0%	38.3%	2.5%	.3%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	45.7%	51.0%	3.0%	.3%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	46.7%	50.1%	3.1%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	47.8%	48.9%	2.9%	.4%	100.0%
全体		48.0%	48.8%	2.9%	.2%	100.0%

(6) 教員研修

教育研修に関する取組については、図表 1-283 から図表 1-285 に示す 3 種の取組で、無解答率が低い学校ほど、より積極的な取組を行っている。これらは国語 A と同様の傾向となっている。

図表 1-283 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	46.4%	44.8%	8.6%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	35.9%	55.5%	8.2%	.1%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	35.8%	55.8%	8.3%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	33.6%	55.4%	10.7%	.1%	.2%	100.0%
全体		36.9%	54.3%	8.6%	.1%	.2%	100.0%

図表 1-284 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	33.7%	57.1%	9.0%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	20.7%	68.4%	10.9%		.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	19.0%	68.8%	12.2%		.0%	100.0%
	高い(7/8～)	16.9%	67.1%	15.7%	.2%		100.0%
全体		21.2%	67.0%	11.8%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-285 教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学A 無解答率	低い(～上位1/8)	49.3%	42.7%	7.5%	.2%	.3%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	38.9%	52.6%	8.3%		.3%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	38.7%	52.6%	8.5%	.0%	.2%	100.0%
	高い(7/8～)	36.8%	52.0%	10.7%	.2%	.4%	100.0%
全体		39.8%	51.3%	8.6%	.1%	.3%	100.0%

1-4-8 学校別無解答率の分析（中学校数学B）

(1) 指導方法

指導方法・学習規律に関する取組について、図表 1-286 から図表 1-298 に示す 13 項目いずれの取組とも、無解答率の低い学校ほど、設定した選択肢のうち最も積極的な取組を示す選択肢「よく行った」を回答しており、無解答率が「低い」学校と「高い」学校間の回答割合は 10 ポイント以上の差となっている。

無解答率が「低い」学校と「高い」学校間で「よく行った」と回答した割合に差がみられた項目は、全て数学 A と同じ取組であり、主に学習の基本的な姿勢に関する指導（「生徒の発言や活動の時間の確保」－図表 1-289, 「学習規律の維持の徹底」－図表 1-291, 「学習方法に関する指導」－図表 1-292), 及び自分で調べたり考えたりする取組（「考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導」－図表 1-288, 「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題・テーマの設定」－図表 1-293, 「学級やグループで話し合う活動」－図表 1-294, 「本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導」－図表 1-295, 「資料を使った発表の指導」－図表 1-296, 「生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導」－図表 1-297, 「課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導」－図表 1-298) のそれぞれについて、無解答率が低い学校ほど「よく行った」の回答の割合が高い。

図表 1-286 授業の冒頭における目標の提示

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い（～上位1/8）	50.1%	43.7%	5.7%	.4%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	44.5%	47.8%	7.5%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	40.7%	50.9%	8.2%	.1%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	33.3%	55.1%	11.1%	.5%		100.0%
全体		42.4%	49.4%	8.0%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-287 授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い（～上位1/8）	33.7%	57.2%	8.7%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	27.0%	61.5%	11.1%	.3%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	23.5%	63.3%	13.0%	.2%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	18.1%	64.6%	17.2%	.1%		100.0%
全体		25.4%	62.0%	12.3%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-288 考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い（～上位1/8）	39.0%	57.5%	3.2%		.3%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	23.7%	69.7%	6.4%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	18.2%	71.9%	9.9%		.0%	100.0%
	高い（7/8～）	13.9%	70.5%	15.5%	.1%		100.0%
全体		22.3%	69.1%	8.5%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-289 生徒の発言や活動の時間の確保

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い（～上位1/8）	44.6%	51.8%	3.5%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	30.9%	63.4%	5.5%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	24.0%	67.6%	8.4%		.1%	100.0%
	高い（7/8～）	17.4%	68.2%	14.4%	.1%		100.0%
全体		28.4%	64.1%	7.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-290 生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い（～上位1/8）	43.6%	51.9%	4.2%	.2%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	36.9%	57.7%	5.3%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	32.5%	61.7%	5.8%	.0%	.0%	100.0%
	高い（7/8～）	28.2%	64.0%	7.6%	.2%		100.0%
全体		35.0%	59.2%	5.6%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-291 学習規律の維持の徹底

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い（～上位1/8）	78.9%	20.0%	1.0%		.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	71.9%	27.0%	.9%		.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	56.4%	40.8%	2.7%		.0%	100.0%
	高い（7/8～）	41.8%	52.2%	6.0%	.1%		100.0%
全体		63.2%	34.5%	2.2%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-292 学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い（～上位1/8）	67.3%	31.0%	1.5%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	52.0%	46.2%	1.7%		.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	41.9%	55.5%	2.6%		.0%	100.0%
	高い（7/8～）	35.4%	59.3%	5.2%			100.0%
全体		48.0%	49.4%	2.4%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-293 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題・テーマの設定

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い(～上位1/8)	38.5%	48.7%	12.7%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	26.4%	58.1%	15.2%	.1%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	19.7%	57.8%	22.2%	.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	16.5%	56.6%	26.8%	.1%		100.0%
全体		24.2%	56.6%	19.0%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-294 学級やグループで話し合う活動

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い(～上位1/8)	44.7%	48.1%	7.0%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	33.2%	58.0%	8.6%	.0%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	25.6%	59.3%	15.0%	.0%	.0%	100.0%
	高い(7/8～)	16.8%	60.3%	22.9%			100.0%
全体		29.8%	57.5%	12.6%	.0%	.1%	100.0%

図表 1-295 本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い(～上位1/8)	28.6%	54.6%	16.3%	.3%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	16.1%	62.4%	21.2%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	12.2%	57.8%	29.5%	.4%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	9.2%	52.4%	37.8%	.6%		100.0%
全体		15.3%	58.4%	25.8%	.4%	.1%	100.0%

図表 1-296 資料を使った発表の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い(～上位1/8)	31.0%	56.2%	12.4%	.3%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	16.0%	64.5%	19.3%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	11.5%	60.7%	27.6%	.3%	.0%	100.0%
	高い(7/8～)	7.8%	54.0%	37.5%	.7%		100.0%
全体		15.1%	60.7%	23.8%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-297 児童が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い(～上位1/8)	38.3%	55.3%	6.3%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	20.2%	67.6%	12.0%		.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	15.3%	68.0%	16.6%	.1%	.0%	100.0%
	高い(7/8～)	9.7%	66.1%	24.1%	.1%		100.0%
全体		19.3%	66.0%	14.5%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-298 総合学習において課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い(～上位1/8)	44.7%	42.6%	12.2%	.3%	.2%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	28.8%	52.9%	17.7%	.4%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	22.3%	54.7%	22.2%	.7%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	18.2%	53.1%	28.1%	.6%		100.0%
全体		27.0%	52.3%	20.0%	.5%	.2%	100.0%

(2) 指導内容

指導方法では図表 1-299 から図表 1-301 に示す 3 種の取組について、無解答率の低い学校ほど、「よく行った」と回答している。

このうち数学科に関する設問についてみると、「発展的な学習の指導」について、無解答率の低い学校ほど「よく行った」と回答した割合が高く（図表 1-301）、数学 A と同様の傾向である。その一方で、数学 A では相関関係のみられた「補充的な学習の指導」は、数学 B では無解答率の低い学校と、高い学校との間で、「よく行った」と回答した割合の差が 10 ポイントを下回っている³。

図表 1-299 コンピュータ等の基本的な操作を身につける指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い(～上位1/8)	47.4%	42.4%	8.4%	1.7%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	39.8%	52.7%	6.9%	.4%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	36.2%	56.1%	6.9%	.7%	.0%	100.0%
	高い(7/8～)	30.4%	56.8%	11.5%	1.2%	.1%	100.0%
全体		38.2%	53.2%	7.7%	.8%	.1%	100.0%

図表 1-300 情報通信技術を活用した協働学習や課題発見・解決型の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解答率	低い(～上位1/8)	15.3%	38.6%	38.8%	7.3%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	7.7%	39.1%	46.6%	6.5%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	6.1%	35.2%	51.0%	7.6%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	4.8%	32.4%	54.4%	8.2%	.1%	100.0%
全体		7.7%	36.7%	48.2%	7.2%	.1%	100.0%

³ 無解答率の高い学校と低い学校との間で「よく行っている」の回答割合が 10 ポイント未満であったため図表は非掲載。なお、無解答率が高い学校において「よく行っている」は 23.0%、低い学校においては 32.7%であった。

図表 1-301 数学科における発展的な学習の指導

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	27.2%	49.6%	21.0%	2.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	10.4%	54.3%	33.0%	2.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	8.0%	46.1%	42.7%	3.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	6.6%	41.5%	48.2%	3.7%	.1%	100.0%
全体		11.1%	49.0%	37.0%	2.7%	.1%	100.0%

(3) 家庭学習

家庭学習のうち数学科単独、国語・数学共通質問それぞれについてみたところ、図表 1-302 から図表 1-306 に示す 6 種の取組について、無解答率の低い学校ほど、「よく行った」を回答している割合が高い。傾向は数学 A と概ね同様であるが、数学 A で無解答率との関連がみられた「保護者に対し、生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」(図表 1-273) については、数学 B においては関連がみられなかった。

図表 1-302 家庭学習の課題を与えた

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	65.1%	29.0%	5.7%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	53.2%	39.7%	6.8%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	45.8%	46.4%	7.5%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	36.1%	54.1%	9.4%	.2%	.1%	100.0%
全体		49.8%	42.7%	7.3%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-303 家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図った

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	42.9%	38.8%	15.4%	2.9%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	32.0%	47.1%	18.6%	2.2%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	27.8%	49.4%	20.4%	2.3%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	26.0%	48.5%	22.4%	3.2%		100.0%
全体		31.0%	47.1%	19.3%	2.4%	.1%	100.0%

図表 1-304 家庭学習の課題について評価・指導した

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていない	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	66.5%	30.2%	3.2%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	56.8%	39.2%	3.6%	.3%	.1%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	51.1%	43.5%	5.1%	.2%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	43.6%	48.5%	7.5%	.4%		100.0%
全体		54.2%	40.8%	4.6%	.3%	.1%	100.0%

図表 1-305 家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりする宿題を出した
(国語・数学共通質問)

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	24.0%	49.3%	25.2%	1.0%	.4%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	9.6%	51.8%	36.7%	1.3%	.6%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	8.4%	47.6%	42.0%	1.5%	.5%	100.0%
	高い(7/8～)	7.5%	41.0%	48.7%	2.5%	.4%	100.0%
全体		10.7%	48.6%	38.7%	1.5%	.5%	100.0%

図表 1-306 家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた
(国語・数学共通質問)

							合計
		よく行った	どちらかといえ ば、行った	あまり行っていな い	全く行っていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	38.7%	51.3%	9.3%	.3%	.4%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	26.1%	61.3%	11.8%	.3%	.5%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	23.3%	61.9%	14.1%	.3%	.4%	100.0%
	高い(7/8～)	19.8%	63.1%	16.2%	.3%	.5%	100.0%
全体		25.8%	60.5%	12.9%	.3%	.5%	100.0%

(4) 地域の人材・施設の活用

地域の人材・施設の活用に関しては無解答率が高い層・低い層との間で取組を「よく行った」と回答した割合に10ポイント以上の差は見られなかった。

(5) 教職員の取組(研修除く)

教職員の取組のうち研修を除いたものについてみると、国語や数学Aと同様、図表 1-307 から図表 1-311 に示す5種の取組とも無解答率が低い学校ほど、より積極的な取組を行っている。特徴的な点として、数学Aと同様「言語活動に重点を置いた指導計画を作成している」(図表 1-309)との間に相関関係がある点があげられる。言語活動の指導は、国語以外の科目にも強く影響しているものと考えられる。

図表 1-307 学習指導・評価の計画の作成に、教職員同士が協力し合っている

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	45.5%	50.1%	4.0%	.3%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	34.5%	59.6%	5.8%		.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	32.6%	61.5%	5.9%		.1%	100.0%
	高い(7/8～)	30.8%	61.6%	7.3%	.2%	.1%	100.0%
全体		34.7%	59.4%	5.8%	.1%	.1%	100.0%

図表 1-308 知識・技能の活用に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い（～上位1/8）	27.1%	61.4%	11.0%	.4%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	15.0%	68.0%	16.6%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	12.9%	68.2%	18.7%	.2%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	11.2%	70.2%	18.4%	.2%	.1%	100.0%
全体		15.3%	67.5%	16.9%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-309 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している

							合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い（～上位1/8）	33.3%	55.0%	11.1%	.5%	.1%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	23.1%	61.9%	14.7%	.2%	.1%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	19.8%	61.6%	18.4%	.1%	.1%	100.0%
	高い（7/8～）	16.6%	59.1%	23.7%	.5%	.1%	100.0%
全体		22.3%	60.6%	16.8%	.2%	.1%	100.0%

図表 1-310 学校の教育目標やその達成に向けた方策について、全教職員の間で共有し取組に当たっている

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い（～上位1/8）	61.7%	36.4%	1.5%	.3%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	53.6%	44.4%	1.8%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	49.0%	49.0%	1.7%	.3%	100.0%
	高い（7/8～）	46.9%	50.2%	2.7%	.2%	100.0%
全体		52.1%	45.9%	1.8%	.3%	100.0%

図表 1-311 学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間で共有している

						合計
		よくしている	どちらかといえ ば、している	あまりしていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い（～上位1/8）	58.3%	39.0%	2.5%	.3%	100.0%
	やや低い（1/8～1/2）	47.0%	49.8%	2.9%	.2%	100.0%
	やや高い（1/2～7/8）	45.7%	50.7%	3.3%	.3%	100.0%
	高い（7/8～）	47.5%	49.8%	2.5%	.2%	100.0%
全体		48.0%	48.8%	2.9%	.2%	100.0%

(6) 教員研修

教育研修に関する取組については、図表 1-312 から図表 1-314 に示す 3 種の取組で、無解答率が低い学校ほど、より積極的な取組を行っている。これらは国語 A や数学 A と同様の傾向となっている。

図表 1-312 教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加できるようにしている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	46.7%	44.8%	8.3%	.1%	.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	37.2%	54.4%	8.0%	.1%	.2%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	34.5%	56.6%	8.7%	.1%	.1%	100.0%
	高い(7/8～)	33.3%	56.3%	10.2%	.1%	.2%	100.0%
全体		36.9%	54.3%	8.6%	.1%	.2%	100.0%

図表 1-313 教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	33.8%	57.2%	8.8%		.1%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	21.3%	68.1%	10.5%		.0%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	18.6%	68.8%	12.6%		.0%	100.0%
	高い(7/8～)	16.1%	67.7%	16.0%	.2%		100.0%
全体		21.2%	67.0%	11.8%	.0%	.0%	100.0%

図表 1-314 教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組を行っている

							合計
		よくしている	どちらかといえば、している	あまりしていない	全くしていない	その他・無回答	
数学B 無解 答率	低い(～上位1/8)	49.1%	43.0%	7.5%	.1%	.3%	100.0%
	やや低い(1/8～1/2)	40.3%	51.5%	7.9%		.3%	100.0%
	やや高い(1/2～7/8)	37.2%	53.3%	9.1%	.1%	.3%	100.0%
	高い(7/8～)	36.9%	52.7%	10.1%	.2%	.2%	100.0%
全体		39.8%	51.3%	8.6%	.1%	.3%	100.0%

1-4-9 無解答率の改善に影響すると考えられる学校の取組

前項までに示した、無解答率の分析結果から、無解答率の低い学校ほど積極的に取り組んでいる取組の状況をみると以下のとおりとなる。なお、多くの項目は国語 A-算数・数学 A、国語 B-算数・数学 B において共通しており「児童生徒の発言や活動時間を確保する」や「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す」といった児童生徒に関心や充実感を持たせるような工夫は、国語-算数・数学いずれの成績底上げにも効果があることが推測される。また、言語活動は、国語のみならず算数・数学に効果があることが推測される。

図表 1-315 無解答率の低い学校ほど積極的に取り組んでいる取組（小・中）

分野	内容	小学校				中学校			
		国 A	国 B	算 A	算 B	国 A	国 B	数 A	数 B
指導方法・学習規律	①：授業の冒頭における目標の提示	○	○	○	○	○	○	○	○
	②：授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ	○	○	○	○	○	○	○	○
	③：考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導	○	○	○	○	○	○	○	○
	④：児童／生徒の発言や活動の時間の確保	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑤：生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導					○	○	○	○
	⑥：学習規律の維持の徹底	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑦：学習方法（ノートの取り方）に関する指導	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑧：学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題・テーマの設定		○		○	○	○	○	○
	⑨：学級やグループで話し合う活動	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑩：本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導				○	○	○	○	○
	⑪：資料を使った発表の指導		○		○	○	○	○	○

分野	内容	小学校				中学校			
		国 A	国 B	算 A	算 B	国 A	国 B	数 A	数 B
指導方法・学習規律	⑫：児童／生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑬：総合学習における，課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導		○		○	○	○	○	○
教科指導	①：コンピュータ等の基本的な操作を身につける指導					○	○	○	○
	②：情報通信技術を活用し，協働学習や課題発見・解決型の指導					○		○	○
	③：目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業		○			○	○		
	④：様々な文章を読む習慣を付ける授業					○	○		
	⑤：書く習慣を付ける授業	○	○			○	○		
	⑥：漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業					○	○		
	⑦発展的な学習の指導					○	○	○	○
	⑧補充的な学習の指導			○	○			○	
家庭学習	①：家庭学習の課題を与えた					○	○	○	○
	②：調べたり文章を書いたりする宿題（国語・算数/数学共通質問）	○	○			○	○	○	○
	③：学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国語・算数/数学共通質問）	○	○	○	○	○	○	○	○
	④：保護者に対して，児童/生徒の家庭学習を促すよう働きかけ	○	○	○	○			○	
	⑤：家庭学習の課題について評価・指導	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑥：家庭学習の課題の与え方について，教職員で共通理解を図った	○	○	○	○	○	○	○	○

分野	内容	小学校				中学校			
		国 A	国 B	算 A	算 B	国 A	国 B	数 A	数 B
教職員の取組	①：知識・技能の活用に重点を置いた指導計画					○	○	○	○
	②：言語活動に重点を置いた指導計画	○	○		○	○	○	○	○
	③：学校の教育目標や達成に向けた方策について全教職員で共有し取組	○	○	○	○	○	○	○	○
	④：学習指導・学習評価の計画の作成にあたり教職員同士が協力し合っている		○	○	○	○	○	○	○
	⑤：学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間での共有	○		○	○	○	○	○	○
教員研修	①：模擬授業や事例研究など、実践的な研修	○					○		
	②：教員が、他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加	○	○	○	○	○		○	○
	③：校内外の研修や研究会の成果を教育活動に積極的に反映		○		○	○	○	○	○
	④：教科内にとどまらず学校として組織的に、指導力向上のための研修や取組					○	○	○	○

小学校において、無解答率の減少に効果がある取組について詳しくみると、国語／算数で共通する取組は、「授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動」のような、授業の進め方を整理する取組、「児童の発言や活動の時間確保」や「児童の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導」といった、思考や発言機会を確保する取組、また家庭学習の推進に関する様々な取組等が挙げられる。この他、国語／算数に共通してみられるものとして、「児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導」が挙げられる。言語活動に関する事項であるが、国語に効果があるのみならず、算数 A や算数 B においても効果がみられる点は特徴的といえる（図表 1-316）。

図表 1-316 小学校において、児童の無解答率減少に効果があることが推測される取組

	国語 A	算数 A
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動 ・授業の最後に学習したことを振り返る活動 ・児童の発言や活動の時間を確保 ・児童の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導 ・書く習慣を付ける授業 ・児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導 ・学級やグループで話し合う活動 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げ教育 ・家庭学習の出し方について，教職員で共通理解 ・保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけ ・学習規律（私語をしない，聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す ・児童の発言や活動の時間を確保 ・児童の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・資料を使って発表ができるよう指導 ・児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導 ・計算問題などの反復練習をする授業 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げ教育 ・家庭学習の課題の与え方について，教職員で共通理解 ・保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけ ・学習規律（私語をしない，聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用
	国語 B	算数 B
小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動 ・授業の最後に学習したことを振り返る活動 ・児童の発言や活動の時間を確保 ・児童の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導 ・将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ ・書く習慣を付ける授業 ・児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導 ・本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くように指導 ・資料を使って発表ができるよう指導 ・学級やグループで話し合う活動 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げ教育 ・家庭学習の出し方について，教職員で共通理解 ・学習規律（私語をしない，聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す ・授業の最後に学習したことを振り返る活動 ・児童の発言や活動の時間を確保 ・児童の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導 ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ ・児童が自分で調べたことや考えたことを分かりやすく文章に書かせる指導 ・本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くように指導 ・学級やグループで話し合う活動 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・計算問題などの反復練習をする授業 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げ教育 ・家庭学習の課題の与え方について，教職員で共通理解 ・学習規律（私語をしない，聞き手に向かって話をするなど）の維持を徹底 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用

次に中学校について詳しくみると、国語／数学での共通する取組は、小学校と比較するとやや少ないものの、「本やインターネットなどの資料の調べ方」「生徒の発言や活動の時間確保」「講師を招聘する等の校内研修」「指導力向上のための研修や取組」が、国語／数学に共通している。この他、国語においては「書く習慣」「文章を読む習慣」といった言語活動に関する事項が複数みられる。但し数学 A においても「自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導」に効果がみられ、言語活動に関する事項は必ずしも国語だけでなく、数学にも影響している可能性がある（図表 1-317）。

図表 1-317 中学校において、生徒の無解答率減少に効果があることが推測される取組

	国語 A	数学 A
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ ・生徒の発言や活動の時間を確保 ・生徒の様々な考えを引き出したり，思考を深めたりするような発問や指導 ・生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 ・学級やグループで話し合う活動を授業などで行う ・本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導 ・資料を使って発表ができるよう指導 ・目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業 ・書く習慣を付ける授業 ・様々な文章を読む習慣を付ける授業 ・講師を招聘するなどの校内研修 ・指導力向上のための研修や取組 ・学習規律の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマ ・生徒の発言や活動の時間を確保 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導 ・生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導 ・補充的な学習の指導 ・家庭学習の課題（長期休業の課題除く）について，評価・指導 ・家庭での学習方法等を具体例を挙げながら指導 ・講師を招聘するなどの校内研修 ・指導力向上のための研修や取組 ・学習規律の維持
	国語 B	数学 B
中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言や活動の時間を確保 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・資料を使って発表ができるよう指導 ・目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業 ・書く習慣を付ける授業 ・講師を招聘するなどの校内研修 ・指導力向上のための研修や取組 ・学習規律の維持 ・全国学力・学習状況調査や独自の調査等の結果を利用 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の発言や活動の時間を確保 ・授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童に示す活動 ・生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 ・学習方法（適切にノートをとるなど）に関する指導 ・家庭学習の課題の与え方について，教職員で共通理解 ・学習規律の維持 ・学習指導と学習評価の計画の作成にあたって教職員が協力し合っている

第2章 現地調査

前章で示されたとおり，学力の底上げや無解答率の減少に資すると考えられる各種の取組を実践している学校に対して現地調査を実施した。

2-1 対象校の抽出

下記の基準に則り，現地調査の対象候補となる学校を抽出した。

=小学校=

- ・平成 21 年度調査と平成 25 年度調査の間に，低学力層の児童・生徒が 15%以上減少している
- ・回帰分析の結果，低学力層の児童・生徒の減少に強い影響力を示した「さまざまな文章を読む授業の活発化」「実生活における事象との関連を扱った授業の活発化」「地域人材・外部講師の活用の活発化」についていずれも，平成 21 年度時点よりも平成 25 年度時点の方が積極的に行っている

=中学校=

- ・平成 21 年度調査と平成 25 年度調査の間に，低学力層の児童・生徒が 20%以上減少している
- ・以下に示す，低学力層の減少に大きく影響していると考えられる 15 項目のうち 10 項目以上の取組で，平成 21 年度時点よりも平成 25 年度時点の方が積極的に行っている

1 ノート等の学習方法指導

2 学級全員で取組・挑戦

3 学習規律の維持

4 将来就きたい仕事・夢について指導

5 生徒の発言や活動時間の確保

6 生徒の様々な考えを引き出す指導

7 本やインターネットでの資料の調べ方

8 資料を使つての発表

9 調べたことの文章化を指導

10 話したり聞いたりする授業

11 書く習慣をつける授業

12 文章を読む習慣をつける授業

13 数学・補足的な授業

14 家庭での学習方法を具体例を挙げながら指導

15 テーマを決め講師を招へいするなどの校内研修

結果として、小学校 6 校、中学校 6 校の調査対象候補校を抽出した。但し、これらの中で同一都道府県への調査は行わないこととし、その上で「低学力層の児童・生徒の減少率」が上位の 5 校を抽出した。(但し、全般に中学校の方が、減少率が高いため、小学校 2 校、中学校 3 校を割り付けることとした)

2-2 ヒアリング結果

5 校への現地調査（校長・教頭または教務主任に対するヒアリング）の結果を次頁以降に示す。なお、横並びでの比較ができるよう一覧表に整理している。

図表 2-1 ヒアリング結果一覧

	A小学校	B小学校	C中学校	D中学校	E中学校
平成25年度最上級学年のクラス数	2クラス	3クラス	2クラス	2クラス	6クラス
課題意識	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲が低い児童が多い。また、そういった場合には家庭も協力的でない場合が多い。 ・関連して、宿題をやってこない児童が多い。 ・読むことが苦手な児童、また書くことが苦手な児童が多い。書くことについては「嫌い」という児童も多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力が低い児童が多いことを問題視していた。 ・文章表現や文章理解の苦手な児童が多い。自分の意見を「単語」レベルで示せても文章にして話せないなどというケースがあり、テストにおいては「質問文の意図」をしっかりと理解できないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を抜け出したり、妨害する生徒がおり、授業運営に支障がある状態であった。 ・基礎学力の低さについては問題視していた。 ・ノートの取り方を知らない生徒が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・従前から授業の規律は確保されていた。但し、入学者数の増加などから、教員の目が行き届きづらくなるため、特に授業規律が確保されるように配慮している。 ・学習意欲は比較的高い生徒が多いものと認識している。但し読解力が弱い生徒が多い。理数系科目に対して興味を有していても、読解力が不足しているためにペーパーテストの成績が伸びない生徒がみられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を抜け出したり、妨害する生徒がおり、授業運営に支障がある状態であった。 ・21年度の学力・学習状況調査の結果、成績がふるわなかったことから、様々な対応策をとっている。
従前の地域との関係や地域の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園が隣接している ・学区の範囲が狭く、通学時間の短い児童が多い。 ・地元基礎自治体が設置する図書館は出前サービス等を行っており、ユーザビリティが高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史のある学校であり、地元住民や地元企業からの理解は厚い。学校ボランティアや、社会科見学への協力は得やすい状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の雰囲気が悪く、地元からの信頼は得られていなかった(地元のお祭りへの参加も拒まれていた)。こうした状況については、教員だけでなく生徒も、問題と感じており、「学校を変えたい」という意識があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に問題点はない。 ・近隣の宅地開発が進んでおり、生徒は増加傾向。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地元住民や地元企業からの信頼は厚い。

	A小学校	B小学校	C中学校	D中学校	E中学校
指導方法の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」ができないことが最も重大な問題と認識（読むことができないことが、書くことの苦手意識に繋がっている）と判断。 ・朝自習の時間に、漢字のかきとり、100マス作文、本の音読等の言語能力に関する課題を設定し、言語能力を高める取組を重点的に実施した。 ・朝自習の時間に用いる音読の教材としては、国語の教科書で扱った作者の別作品や、別作者が同じテーマについて書いた作品を活用している。図書館に依頼し、該当する書籍を長期間借りることが可能となっている。児童が興味を持って読書をすることができ、また読書の感想を述べ合うなどの発展的な効果が期待できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・確かな学力を育成するための工夫として「基礎学力定着の取組」「全校読書」「個別指導」「授業の工夫改善」を掲げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校入学直後にテストを行うことで、「地元小学校から中学校に上がってくる段階での基礎学力」に大きな問題があることが判明（小学校3年配当の漢字がわからない生徒が多数いる、等）。 ・地元小学校（中学校の学区内にある3校）と連携し、小学校段階から「正しいノートの取り方」等を覚えていただくように取り組んでいる。具体的なノートの取り方等の指導内容については中学校側でコーディネートし、小学校3校で話し合いの上で決定している。この取組は算数からスタートしている。 ・この他、学習の際に国語辞典を引く習慣をつけるように小学校に依頼している。 ・地元小学校教員と共同の研究会を置き、児童・生徒がどういったところでもつまづいてしまうのか、認識を共有し指導に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく「書くこと」を習慣づけることを重視し、帰宅後に「生活の記録」（学習・生活を記録する日記型教材）を必ず書かせるようにする。これについては適宜担任がチェックを行う。（学習習慣のチェックや生活状況（早寝・早起き）のチェックと合わせて行う） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶことへのモチベーションを高める、下げないことが重要であり、各場面でモチベーションを常に意識している。これは、近隣の大学教員を、研究会に招いた際に、いただいたアドバイスを実践しているものである。 ・朝自習で出題した内容のうち、一部は必ず定期試験に出すことを明らかにしている。これにより、生徒が朝自習に臨む意識を高める。

	A小学校	B小学校	C中学校	D中学校	E中学校
授業の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭5分程度で、当該授業の目標を説明する。 ・授業の終了時5～7分程度で、授業の振り返りを行い、学習内容の定着ができたかどうかを評価している。 ・2人グループ、3人グループで「友達と学び合う」時間を授業時間中に確保する。 ・他方で「自分ひとりで思考」する時間を教員が宣言し、確保する。各児童が自分の考えをもつことができるようにしている。 ・週に一時間、特設学習時間を設け、算数の基礎力向上に充てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・T Tを積極活用し、習熟度別授業を一部で実施。 ・児童アンケートを実施し、児童の理解度等を定期的に確認。 ・グループ学習の機会を持ち、自分の意見を述べさせるようにしている。学校として「少数意見を大事にする」ことを（授業運営はもとより）学級運営の前提としており、授業においてもこの考え方を踏襲している。 ・これは、言語能力の強化が重要と考えているためである。会話が単語の連続になってしまい文章になっていない児童が多数いることから、自分の意見・考えを「文章化」できるようにしている。 ・算数においてはレディネステストを実施して能力を把握。この結果と本人の希望を踏まえ、学年・学級を2～3グループに再編して授業を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学（社会、理科も同様）については、必ず授業の冒頭5分間は小学校で学んだことを振り返る時間に行っている。 ・講義型授業だけではモチベーションが維持できない生徒がいることから、PBL型の授業を導入。 ・PBL型の授業の導入に伴い、グループでの学習機会が増える。また、テーマ設定も柔軟にし、生徒が意欲を持つような内容をテーマに置き「調査する、学ぶ、課題を解決する」ことに積極的に取り組めるようにしている。 他方で一部習熟度別の授業を取り入れているため、生徒にとってグループは1つでなく、授業場面ごとに様々なグループに属している。この中で「学び合い」の場面ができるように配慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義を聞きながらノートをとる、ということに慣れないうちに勉強についていけなくなる生徒がみられる。そこで、1年生の1学期のうちは「ノートをとる時間」を明示的に与える。 ・ノートをとる力で学力に差がつく機会を減らすべく、適宜プリント教材を使用するようにしている。これは潜在的な学力を有しているにもかかわらず、ノートを取る技術が劣っていることで、授業についていけなくなるという生徒をできるだけ出さないようにするためである。 ・板書を行う場合についても、分量が多くなり過ぎないように、各教員に注意を促している。 ・数学・英語で一部習熟度別の授業を展開している。特に数学については、苦手な子のフォローを主眼において、T Tを活用している（基礎自治体による予算措置あり） 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒は入学当初、ノートの取り方をわかっていない。そのため、最初の授業にはノートを持参させない。どういうノートを買うべきか、そのノートをどう使うのか、という段階から指導している。 ・班単位での学習を多く取り入れている。この班のリーダーが、学習の場面において班員を牽引している。 ・成果の可視化によるモチベーションの確保をねらっている。例えば挙手発言の回数に応じてシールを貼るようにしている。なお、この発言回数の記録は講義中だけでなく、班学習のときにも ・数学（2年）、英語（1～2年）については2段階の習熟度別授業を実施している。

	A小学校	B小学校	C中学校	D中学校	E中学校
	<ul style="list-style-type: none"> また、5・6年生のみ月に1時間、算数の強化をするための時間を確保している。能力別に教材を用意し、この時間に授業を持たない1～4年の教員も含めて指導にあたる。(そのため、学力の高い児童は発展的な内容を、学力の低い児童は補充的な内容を学習する) 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト等は合格点がとれるまでなんども繰り返し行い、「繰り返すことが報われること」、成功実感を得られるようにしている。これにより、「無解答にしない」ことについても児童が心がけるようになっている。 あわせて児童の「粘り強さ」の涵養^{かん}をねらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> (現在はほとんどいないが)従前は授業を抜け出してしまう生徒が多かった。当初はその授業の担当教員が対応していたが、これを授業を持つていない教員が対応するように改め、授業が滞りなく進行できるようにした。 TTを活用し、比較的学力の低い生徒のサポートにあたっている(数学、英語等)。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の発言場面をできるだけ確保している。そのため、班活動・班単位の学習場面を多くつくり、班内での意見発表場面を確保している。 50分の授業時間で多くの目標を設定してしまうと、かえって得られる成果が少なくなってしまう。あくまでも年間を通して学習指導要領の内容をバランスよく指導するようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 試験における無解答を出来る限り減らしている。そもそも朝自習の教材が一部試験問題になっていることもあり、試験監督を担当する教員は、試験をみまもりながら空欄を埋めるよう促すようにしている。

	A小学校	B小学校	C中学校	D中学校	E中学校
授業時間外の取組	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を呼びかけているが、必ずしも効果が出るわけではないため、下校前に勉強機会を設けることとした。 授業終了後、希望者が残って、(全学年の児童が一つの教室で)補習を行っている。幸いにも学区が狭く登下校については安全の確保が容易なため、放課後の時間の活用はしやすい。 児童も「家では勉強に集中できないので」という理由で、学校で放課後勉強してから帰ることを厭わないケースが多い(自ら望んで勉強していく児童もいる)。 補習用の教室は25名程度が利用可能な環境。自身の担任クラスの児童かどうかを問わず、その時間に手の空いている教員が補習室に詰める。(補習室は職員室と廊下を挟んで向かい側にあり、移動が容易である) 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の涵養を目的とした放課後学習や長期休み時の補習を実施している。支援が必要な児童は洗い出しており、児童本人と保護者に事前に許可をとった上で、参加してもらっている。拒否はほとんどみられない。 家庭の環境から、家での勉強がしづらい児童が利用する場合もある。 主に理科教育において実践する場面が多いが、「勉強したことが、生活においてどのように役に立つのか」を意識して教育し、児童の興味・関心をひくようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> PBL形式の授業を導入したことで、生徒たちに「調べる意欲」が生じている。そこで、PBL型授業の進捗にあわせて昼休みにコンピューター室を開放し、自分の知りたいことを実際に調べる、という習慣をつけさせている 生徒の入学直後、PBLが円滑に進められるように、1年生の入学直後(4-5月の時期)にプロジェクト・アドベンチャーの機会を設け、生徒間の相互信頼の醸成を図っている。この機会に相互信頼を醸成させるため、学区内の小学校3校から入学してきた生徒の出身小学校バランスに注意している。 	<ul style="list-style-type: none"> 水曜日の放課後は外部の講師を入れ、補習を機会を設けている。複数名の講師が入るので、発展的な内容、補足的な内容いずれにも対応している。全校7学級から約30名が登録しているが、毎回参加するのは概ね半数程度の生徒。小学校と違い中学校では部活動との兼ね合いがあるので、参加を無理に促すことはなく、各生徒個人の判断で参加している。(但し、部活動が休止となる定期考査前の時期は、学力の低い生徒を指名する場合もある) 土曜日は英検対策講座を開講。 定期考査前には、補習事業を実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝自習用の教材は一部(中間及び期末考査の前の週)、生徒が作成した予想問題をみんなで解答している。他方、考査後の朝自習時間は、「読書週間」として読書機会を確保している。 昼休みを活用し、英語・数学・国語を中心に、少人数教室での個別指導を実施している。一部は教員が参加を促す場合もあるが、多くの生徒は自主的に利用している。 放課後は地元自治体の指導員による、放課後自習教室を開講している。

	A小学校	B小学校	C中学校	D中学校	E中学校
現在の地域との連携等	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の幼稚園生向け「あそびの教科書」や、図書館利用者向けの書評（パンフレット）を作成するなど、PBL型の授業を行うとともに、そのコールを地元（学校外）に置くようにしており、協力を得ている。 ・図書館では、教科書教材の同テーマや同作者の書籍をまとめて貸し出していただくなど、児童の学習機会の創出に協力いただいている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地に立地しているため、公的機関や科学館・鉄道駅など社会・科学のための校外活動に適した施設が多数あり、協力いただいている。 ・授業の場面で地域のボランティアに協力していただく場面は少ないが、登下校の見守り活動等にご尽力いただいている。これにより、児童が居残って勉強することも可能になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PBL型授業の一環として、当初は「地元のお祭りの活性化」に取り組むなど、地域連携を試みた。これに成功し、生徒が自信をつけたうえに、地元住民にとっては中学校のイメージ向上につながり、以降の地域連携にもプラスに作用した。 ・地元の小学校と連携。 		<ul style="list-style-type: none"> ・里山でのフィールドワーク活動や、里山を題材にした学習（生徒一人一人が里山についての壁新聞を作る、等） ・地元及び近県の大学教員に協力いただきながら教員研修等を実施している。 ・自治体の方針として小中学校連携を進めており、学区内の小学校と連携をとっている。具体的には、学区内の小学校教員を人事異動により本校（中学校）に異動させるなどの人的交流、また研究会の開催等により、成長段階に応じた学力に責任を持つ認識を共有している。
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引き（A4で1枚）を児童用・保護者用と用意し、保護者にも家庭学習を意識していただくようにしている。 ・上述の図書館での児童作製書評の配布等、子どもの勉強している内容を親が実感し、親子一緒に勉強する、という機会も創出されている 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の手引きを2種類（1~4年用と5・6年用）作成しており、家庭学習における「学習～回収～点検～意欲づけ」の好循環に協力いただけるよう依頼している。おおよそ半数程度の保護者が協力しているものと認識している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では、家庭学習の状況改善までには至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭で机に向かう習慣がなくてはならない。必ず毎日書くようにさせている「生活の記録」もその習慣づけの一助となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者については生徒の家庭学習にあまり関心のないケースが多く、生徒自身も「家庭学習時間は30分以内」という場合が多かった。 ・家庭学習に対する動機づけとして、宿題を提出することに対するインセンティブ（テスト成績に加点）を行っている。

	A小学校	B小学校	C中学校	D中学校	E中学校
					<ul style="list-style-type: none"> ・現状では「加点のために」やっているかもしれないが、まずは家庭学習をする、という習慣を定着させることが重要である。
教員の体制等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の冒頭及び終わりの時間を導入や振り返りに充てるため、授業時間を有効に活用できるよう、教員間相互の授業参観や研究会を開催している 	<ul style="list-style-type: none"> ・校長及び教頭は中学校教員として長く勤務したあと、小学校の教員となっている。そのため、中学校時代に行っていたような、「時には厳しく」という児童や保護者への対応の仕方を理解・実践しており、その考え方は少しずつ他の教員に浸透している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な取組（PBL等）の中心となったのは4～50歳の教員である。この教員はもともと「何かしらの対策をとらなければいけない」という意識はあったものの、なかなか適切な手段が見いだせていなかった。そこに、学校の現状に適したPBL等の手法導入がはじまったことで、積極的に活動している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が年々増加しており、教員数とのバランスという点では過渡期にある。教員一人あたりのみるべき生徒が増えていくので、今後はきめ細かい指導につき、より強い心がけが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数年前までは荒れている学校であったため教員の定着がしづらく、若手教員中心の構成（教師歴6年未満の教員が7割）である。 ・経験の浅さはあるものの、熱意を持って生徒を指導しており、また新しい取組を始めることに対し、飲み込みが早い。
そのほかの取組		<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査の過去問を活用した学習を実施している。 ・児童の生活がしっかりとできていないと、学習もなかなかできない。そこで「自主起床（自分で起きる）、自主登校（親の送迎ではなく自分の足で登校）、自主学習」を児童に実践させるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2～3年ほど前までは生徒の学校生活における態度が悪く、授業運営が成立していなかった。まず環境を変える、という目的で校内のゴミ拾いや壁のペンキの塗り直しなどを生徒自身に行わせ、校舎に愛着を持たせるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では問題があるわけではないが、生徒数の増加により、校内規律の維持に配慮をしている。校内の掃除・片づけの徹底や授業開始時・終了時の挨拶を徹底している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の場合は学力と進路がリンクするため、進路指導が重要である。担任だけでなく、必ず進路指導主事との面接を組んでいる。 ・学力を高めるための取組と平行して、学校生活の活性化を図っている。具体的には部活動加入率を高めるものであり、現在、部活動の加入率は8割以上（学外のスポーツクラブ等の加入率を加えると9割超）。

	A小学校	B小学校	C中学校	D中学校	E中学校
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・言語活動に力点を置いてきたが、今後は国語以外の様々な科目において、言語活動を念頭においていた教育をしていきたい。 ・宿題の出し方も含め、家庭学習の推進はまだ充分でなく今後の課題である。 ・通常学級において、「特別支援が必要な児童」への適切な支援の在り方について検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・25年度学力・学習状況調査から、例えば「内容を理解し自分なりにまとめる力」等の不足があると認識しており、これらの解決を念頭においた指導を行っている。 ・放課後の個別指導は、本来の勤務時間外に、教員に協力をお願いしている形になっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現状では家庭学習の適切な指導には至っていないため、この点に対応していきたい。 ・現在はPBL方式が学校にマッチしているが、必ずしもこれがこの先常に適切な取組であるとは限らない。学校の実態にあわせた適切な対策をとれるようにしていかなければならない。また、現在の取組は負担が大きいので、新規着任者の理解を必ず得られるかどうかは懸念点である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導においては、特別な支援が必要な生徒への適切な指導をどのようにしていくのが教育技術としては様々な手法があるものの、保護者の理解を得ることが容易でなく、適切な教育プログラムに入りづらい（普通学級で授業を受けている）のが現状である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後や昼休みの補習については、多くの生徒は参加するが、最も参加させたい生徒(学力が低い層の生徒)は、なかなか参加しづらい。この層の生徒に対するモチベーション向上策が必要である。 ・現在、若手教員を中心に適切な生徒への指導がなされているが、教員の負担は決して軽いものではない。 ・他方でこれら若手教員は一定年数を経て他校に転出してしまうので、新しい教員に入れ替わったときに、同じような協力が得られるかどうか、という点が今後の懸念点である。 ・現在は家庭学習にしろ授業中の発言にしろ、インセンティブを与えられているから対応している、という生徒もいる。しかし生徒も卒業・進学していくなかでそういったインセンティブなしに行動ができるようになる必要がある。この点では家庭との連携を強めていくこと（家庭に対する意識づけ）が必要と考えている。

2-3 現地調査のまとめ・考察

現地調査結果を踏まえて、学校側の取組と学力の底上げや無解答率の改善についての関係を再整理する。今回、現地調査を行った5校における指導方法、指導のポイント等を整理する。

(1) 「言語能力」への課題感

「読む」「聞く」「話す」といった言語能力が低いことを課題として捉えている学校が多い。またこれらの学校は、言語能力が勉強の礎になっていると考えている。この点は、ヒアリングする中で「読む力がなければ、質問文の意図が理解できないし、書く力がなければ文章による回答ができない。そして児童・生徒の言語能力が低いと、これらに対応できなくなってしまう」などの意見が聞かれており、言語能力の向上は国語や英語のみならず算数・数学や理科、社会等にも波及するものと認識されている。

(2) 学習意欲（モチベーション）を高めるための方策

多くの学校が児童・生徒の「意欲」「モチベーション」を意識している。成功実感を持たせるために、小テストを合格するまで何度でも繰り返す（教師も粘り強く付き合い、合格したら必ず褒める）、また挙手や提出物等に対する点数化を行い、「授業中に発言すること」「家庭で勉強すること」の習慣付けの第一歩としている。

また、PBL型の授業を実施することとし、そのテーマを生徒が興味を持つような内容（街を賑やかにする、地元のお祭りを盛り上げる、等）とし、生徒が積極的に学びたい、調べたいと思える授業としている。

(3) 授業の工夫

TTを活用するなどし、習熟度別に授業を行うケースが多い。科目は算数・数学や英語が中心となっている。

また、学級より小さい、グループ単位による学習機会の確保が行われている。班単位等での学習機会は、各児童・生徒の「班」コミュニティ内での意見形成や発言機会の確保に繋がる。これは、(1)に示した「言語能力」を高めるためのトレーニングとして、意識的に取り入れている学校が複数みられる。

この他、授業の冒頭時間や終了前の時間の活用についても複数の学校が取り入れている。

授業の目的を認識する時間を確保したり、授業内容にかかわる基礎的なテストを行ったり、また授業終了時には授業内容を振り返るといった取組も、児童・生徒の学習効果を高めている。

(4) 授業時間外の活動

昼休み及び放課後の学校施設の活用について様々な取組がみられた。放課後については、多くの学校で補習・補足的な教育を行っているが、D 中学校のように「先進的な内容」「補足的な内容」両方に対応した取組を行う例もみられる。

放課後については、「家で勉強するよりも勉強しやすい」等、学校施設を「家庭教育の場」の代替として機能させているケースもみられる。但し、放課後の活用については、下校時の安全確保の問題がある。今回現地調査を行った小学校 2 校についていえば、A 小学校のように「学区が狭いため、下校時の安全確保がしやすい」、B 小学校のように「ボランティアの方による下校時の安全確保」という点で、安全が担保されていることも、放課後の活用をやすくしているものと考えられる。

中学校においては、D 中学校や E 中学校において放課後の活用が行われているが、D 中学校では「部活動との兼ね合いがあるので、平常時は任意参加」という形で放課後の補足的な教育が行われている。

(5) 生活の改善

直接学力を高める取組ではないものの、児童・生徒の生活習慣や学校生活の改善を行うことで、学習習慣の定着や学習意欲の向上を図る取組がみられる。

(6) 課題

現地調査からは、「取組が成果をあげたこと」の認識と合わせ、様々な取組が教員にとって小さくない負担であることによる懸念が示された。今回の現地調査対象はいずれも公立の小中学校であったため、特段の事情がない限り、教員は定期的な異動の対象者となる。そのため、新規着任者が必ずしも、各種の取組にスムーズに参加できるとは限らず、場合によっては参加を拒む懸念もある。

すなわち、低学力層の底上げ等に繋がるような好取組を行うことに成功しても、その取組をいかに持続させていくのか、常に教員の理解を得ることができるのかについて、懸念

を持っている学校が複数みられた。

また、学校側が積極的な動機付けについての取組を行うことにより、ようやく学習行動をとるようになったという児童・生徒については、「卒業後」すなわち、進学先（あるいは社会）による動機付けがなくなったときにも、積極的に学習行動をとることができるか、という点に不安があり、この不安の解消に至っていないことが課題となっている。当然ながら、卒業するまでに「学校側による動機付け」なしに学習行動をとることができるようになればよいが、それも絶対的なものとはいえない。保護者、家庭のフォローが必要となってくる。

この他、一般学級に在籍する、特別な支援を要する児童・生徒への支援の仕方（保護者への説明の仕方や、教育プログラムの移行の仕方等を含めて）を確立していくことが課題であるとの意見も複数みられた。

第3章 まとめ

これまでの調査結果を踏まえて、小中学校における低学力層児童・生徒の底上げや無解答率の改善に関する学校の取組、また児童・生徒の関心・意欲を高める取組についての考察を行う。

3-1 考察

3-1-1 低学力層の底上げ

学力の底上げという観点からは、教科教育に関する取組・工夫（例えば数学でいうと反復学習、国語でいうと「読む習慣」「書く習慣」に関する指導等）による、底上げ効果がみられるほか、関心・意欲を高める取組についても効果がみられている。例えば、目的意識や授業の成果を明確化する「授業の冒頭で目標を児童に示す」「授業の最後に学習したことを振り返る」といった取組の他、「生徒に、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導」のような、授業参加意欲を高める取組、「児童・生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問・指導」といった授業内での思考等を促す取組、「学級やグループで話し合う活動を授業で行う」といった、グループ授業に関する取組等が該当する。

他方、「適切なノートの取り方に関する指導」や「本やインターネットなどの資料の調べ方が身に付くよう指導」等の学習の仕方に関する指導、家庭学習に関連する指導についても、効果がみられる。

また、「学習規律の維持」については小中学校いずれにおいても低学力層の底上げに効果があるものと考えられる。

なお、「自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導」は、国語だけでなく算数・数学についても効果があるものと考えられる。

この点、現地調査からは、児童・生徒の言語能力に対応した指導を行うことが、低学力層の底上げに必要なとの考えが複数の学校で聞かれた。回帰分析結果や、中学校における取組傾向からも、低学力層の底上げを行っている学校では、文章を読む力の^{かん}涵養が意識されていることが明らかである。これは、言語能力が不足している児童・生徒は、国語のみならず、算数・数学あるいはその他の科目においても、質問内容が理解できない、適切な回答を言語化して表現することができない、という事態に陥ってしまうことが背景にある。

多くの学校が班学習・グループ学習を取り入れているが、これにも「小さい単位での学習機会の中で発言したり話を聞く機会を増やし、もって言語能力を伸ばす」という目的が含まれている。この他、学び合いの効果等の発現も期待されている。

この他、現地調査の対象校では、全国的な傾向と同様、児童・生徒の意欲・関心を高める取組に多数取り組んでいる。

具体的には学習習慣を身に付けるきっかけとして、「宿題を提出したら試験の点数に加点する」といった、勉強をすることに対するインセンティブを与えて意欲を高める取組、小テストに何回でも挑戦させ、合格することの喜び・成功体験を持たせて学習意欲を高めるような取組等が行われている。

また習熟度別授業・補充的な指導（補習等）による、低学力層へのフォローも行われていて、第1章のデータ分析の結果からも、全国的な傾向として、中学校の数学においては効果がみられるといえる。

補充的な指導についてさらに詳しくみると、現地調査において、家庭環境事情から、家庭学習をする習慣がない（家庭学習がしづらい環境下で生活している）児童・生徒の存在が言及されており、「家庭学習」として行うべき内容を、学校で放課後に学習してから帰宅する、ということが行われているケースが複数みられる。

家庭学習に代替する機能としての、学校における補習（あるいは自習室のようなスペースの開放）も、低学力層の底上げに繋がるものと考えられる。

3-1-2 無解答率の減少

無解答率の減少に寄与すると考えられる学校の取組について整理した結果は、図表 3-1 のとおりである。大部分の項目については、小学校、中学校いずれにとっても効果のある取組であることがわかる。

とりわけ学習の基本的な姿勢に関する指導、及び自分で調べたり考えたりする取組をよく行った学校ほど、無解答率が低い傾向が特に強い。

また、ヒアリングにおいては、小テスト（小学校）や定期考査（中学校）で、児童・生徒ができる限り無解答を発生させないような工夫がみられた。小学校においては、テストの合格点に達成するまで何度でも繰り返しテストを受ける（問題は同一のため、複数回チャレンジしている中で、解法や答えについて理解し、解答できるようになる）、中学校にお

いては自習教材から必ず一定数の問題を試験に出題するため、「解いたことのある問題」が答案用紙に必ずある、というものである。試験監督者も該当する設問については、「必ず解答できる質問である」旨を積極的に知らせ、無解答にせず解答するべく努力するよう促しているといった取組がみられる。

図表 3-1 無解答率の減少と関係の深い学校の取組

分野	内容	小学校				中学校			
		国 A	国 B	算 A	算 B	国 A	国 B	数 A	数 B
指導 方法 ・ 学 習 規 律	①：授業の冒頭における目標の提示	○	○	○	○	○	○	○	○
	②：授業の最後での振り返り活動の計画的な取り入れ	○	○	○	○	○	○	○	○
	③：考えを引き出したり思考を深めたりするような発問・指導	○	○	○	○	○	○	○	○
	④：児童／生徒の発言や活動の時間の確保	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑤：生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導					○	○	○	○
	⑥：学習規律の維持の徹底	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑦：学習方法（ノートの取り方）に関する指導	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑧：学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題・テーマの設定		○		○	○	○	○	○
	⑨：学級やグループで話し合う活動	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑩：本やインターネットなどを使った資料の調べ方の指導				○	○	○	○	○
	⑪：資料を使った発表の指導		○		○	○	○	○	○
	⑫：児童／生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導	○	○	○	○	○	○	○	○
	⑬：総合学習における，課題の設定からまとめ・表現に至る探求の過程を意識した指導		○		○	○	○	○	○

分野	内容	小学校				中学校			
		国 A	国 B	算 A	算 B	国 A	国 B	数 A	数 B
指導方法・学習規律	⑭：小テスト等を合格点に達するまで繰り返し挑戦し、最終的に成功実感を得られるようにする<現地調査による>	<※現地調査によって判明した事項であり、具体的に効果のある科目・分野については明確でない>							
	⑮：朝自習の時間に使用した教材と同一の問題を、定期考査時に一部使用する<現地調査による>	<※現地調査によって判明した事項であり、具体的に効果のある科目・分野については明確でない>							
教科指導	①：コンピュータ等の基本的な操作を身につける指導					○	○	○	○
	②：情報通信技術を活用し、協働学習や課題発見・解決型の指導					○		○	○
	③：目的や相手に応じて話したり聞いたりする授業		○			○	○		
	④：様々な文章を読む習慣を付ける授業					○	○		
	⑤：書く習慣を付ける授業	○	○			○	○		
	⑥：漢字・語句など基礎的・基本的な事項を定着させる授業					○	○		
	⑦発展的な学習の指導					○	○	○	○
	⑧補充的な学習の指導			○	○			○	
家庭学習	①：家庭学習の課題を与えた					○	○	○	○
	②：調べたり文章を書いたりする宿題（国語・算数/数学共通質問）	○	○			○	○	○	○
	③：学習方法等を具体例を挙げながら教えた（国語・算数/数学共通質問）	○	○	○	○	○	○	○	○
	④：保護者に対して、児童/生徒の家庭学習を促すよう働きかけ	○	○	○	○			○	
	⑤：家庭学習の課題について評価・指導	○	○	○	○	○	○	○	○

分野	内容	小学校				中学校			
		国 A	国 B	算 A	算 B	国 A	国 B	数 A	数 B
家庭学習	⑥：家庭学習の課題の与え方について，教職員で共通理解を図った	○	○	○	○	○	○	○	○
教職員の取組	①：知識・技能の活用に重点を置いた指導計画					○	○	○	○
	②：言語活動に重点を置いた指導計画	○	○		○	○	○	○	○
	③：学校の教育目標や達成に向けた方策について全教職員で共有し取組	○	○	○	○	○	○	○	○
	④：学習指導・学習評価の計画の作成にあたり教職員同士が協力し合っている		○	○	○	○	○	○	○
	⑤：学校全体の学力傾向や課題について，全教職員の間での共有	○		○	○	○	○	○	○
教員研修	①：模擬授業や事例研究など，実践的な研修	○					○		
	②：教員が，他校や外部の研修機関などの学校外での研修に積極的に参加	○	○	○	○	○		○	○
	③：校内外の研修や研究会の成果を教育活動に積極的に反映		○		○	○	○	○	○
	④：教科内にとどまらず学校として組織的に，指導力向上のための研修や取組					○	○	○	○

3-1-3 児童・生徒の意欲・関心を高める取組

本研究において学校が行う様々な取組のうち，児童・生徒の意欲・関心を高める取組については，以下のものについて，低学力層の底上げや無解答率の減少に寄与するなど，勉強に対して比較的苦手意識があると考えられる層に対して効果を持っているものと考えられる。

とりわけ，現地調査から明らかになったものとして，PBL型授業の実施があげられる。もともとPBL型授業は，自主的な学習や，自ら積極的な文献や資料へのアクセスが求められるものであり，児童・生徒が「興味・関心」をもっていることがしばしば前提となる。

この点、現地調査の対象となった A 小学校では、近隣の幼稚園（園児）や図書館（来館者）をターゲットとする成果物の作成を授業の目的とすることにより、児童が興味を持ちやすい「近所への（地域）貢献」を行うようにしている。

他方、C 中学校では、生徒が興味を持つようなテーマを与えて PBL 型授業を展開している。すなわち、生徒の興味・関心がある状態から PBL 型授業を行うことができるようにしている。その上で「資料の調べ方」等の指導を行い、生徒が「調べること」「課題を達成すること」をやり遂げ、成功実感を持てるようにしている。

図表 3-2 低学力層の底上げや無解答率の減少に効果のみられる、
児童・生徒の意欲・関心を高める取組

分野	内容
授業の方式	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業の冒頭で目標提示 ・ 授業の最後に振り返りの時間を設定
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の様々な考えを引き出したり思考を深めたりするような発問や指導 ・ 生徒に将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導 ・ 学級やグループで話し合う活動 ・ 学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを設定 ・ 興味を引きやすいテーマを設定して PBL 型授業を実施
家庭学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宿題等の提出に対してインセンティブを設定（関心を高める第一歩として）

3-2 課題等

本調査では、児童生徒のうち低学力層の底上げや無解答率の減少という観点から、各学校が行っている取組の分析を行った。図表 3-2 は「効果のみられる取組」を整理したものであるが、全ての学校が簡単に導入することができる取組ばかりでない、という点には注意を払う必要がある。

例えば学力・学習状況調査の結果からは、国内でも多くの学校が「授業の冒頭での目標提示」や「授業の最後に振り返りの時間を設定」といった取組を行っていることが明らかになっているが、現地調査では、このような取組を行うにあたっては、綿密な授業設計が必要であることが示された。これは授業の冒頭及び最後に数分ずつの時間を確保すると、従来の授業の時間配分を大幅に見直さなければならないからである。こうしたことを受け、現地調査の対象校では、教員間の情報交換や研究を行っているという実態が明らかになった。

現状では、各学校内においてこういった情報交換・研究が行われることは頻繁に行われているが、学外における情報交換の実態は必ずしも明らかでない⁴。低学力層の底上げや無解答率の減少に成功した学校を中心に、具体的な指導方法・指導技術の共有が図られれば、各学校の様々な取組がより一層の効果を上げるものと考えられる。

⁴ 但し、平成 25 年学力・学習状況調査からは、多くの学校が「教員の学外研修等の積極参加を促している」という実態は確認できる。小学校の例として図表 1-124 の「全体」値を参照すると、集計対象とした小学校のうち 96%以上が、「よくしている」または「どちらかといえばしている」と回答している。